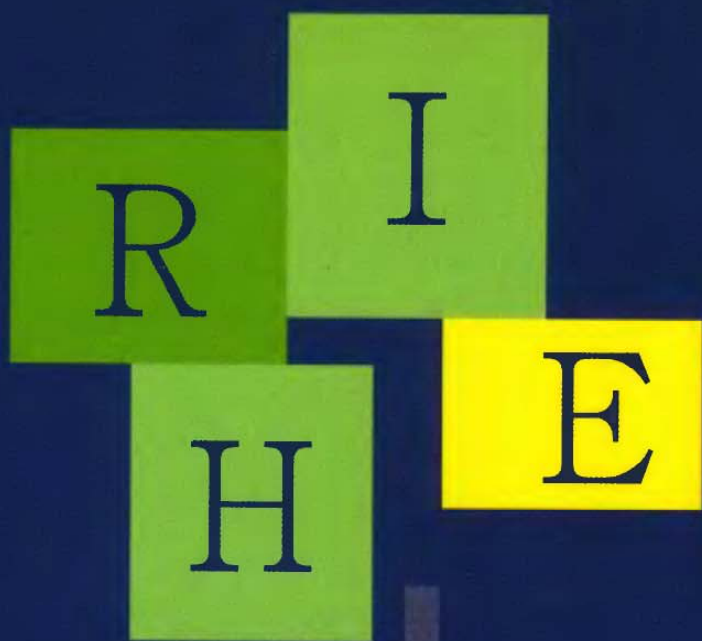


学術体制刷新委員会  
関係資料目録

高等教育研究叢書

49 1998年3月

羽田貴史編



広島大学

大学教育研究センター

# 学術体制刷新委員会関係資料目録

羽田 貴史 編

広島大学 大学教育研究センター



## 目 次

1	〔解題〕 学術体制刷新委員会関係資料について	羽田 貴史	1
2	学術体制刷新委員会関係資料目録		5
	『学術体制刷新委員会総会配付資料綴（第1回）』	リール No. 1	5
	『学術体制刷新委員会総会配布資料綴（第2回）』		7
	『学術体制刷新委員会総会配布資料綴（第3回）』		9
	『学術体制刷新委員会総会配布資料綴（第4～5回）』	No. 2	10
	『学術体制刷新委員会総会配布資料綴（第6～7回）』		12
	『学術体制刷新委員会総会配布資料綴（第8回）』		13
	『学術体制刷新委員会総会配布資料綴（最終回）』	No. 3	15
	『学術体制刷新委員会関係新聞記事切抜綴，昭和22年8月24日起』		16
	『学術体制刷新委員会事務局綴 昭和22年』	No. 4	19
	『学術体制刷新委員会第1回総会速記録（第2日）』	No. 5	32
	『学術体制刷新委員会第2回総会速記録（第1日）』		33
	『学術体制刷新委員会第2回総会速記録（提案処理・小委員会議）』	No. 6	33
	『学術体制刷新委員会第2回総会速記録（第2日）』		
	『学術体制刷新委員会第3回総会速記録（第1日）』	No. 7	34
	『学術体制刷新委員会第3回総会速記録（第2日）』		
	『学術体制刷新委員会第4回総会速記録（S. 22. 11. 21）』	No. 8	
	『学術体制刷新委員会第4回総会速記録（S. 22. 11. 22）』		
	『学術体制刷新委員会第5回総会速記録（S. 22. 12. 22）』	No. 9	35
	『学術体制刷新委員会第5回総会速記録（S. 22. 12. 23）』		
	『学術体制刷新委員会第6回総会速記録（S. 23. 1. 30）』	No. 10	

	『学術体制刷新委員会第6回総会速記録(S.23.1.31)』 No. 11	
	『学術体制刷新委員会第7回総会速記録(S.23.2.23)』 No. 12	…… 36
	『学術体制刷新委員会第7回総会速記録(S.23.2.24)』 No. 13	
	『学術体制刷新委員会第七回総会速記録(S.23.2.25)』	
	『学術体制刷新委員会公聴会速記録(S.23.3.15)』 No. 14	…… 37
	『学術体制刷新委員会第八回総会速記録(S.23.3.25)』 No. 15	
	『学術体制刷新委員会第8回総会速記録(S.23.3.26)』 No. 16	
	『学術体制刷新委員会第8回総会速記録(S.23.3.27)』	…… 38
3	学術体制刷新委員会主要資料	…… 39
4	学術体制刷新委員会関連日程	…… 55

## 解題 学術体制刷新委員会資料について

羽田 貴史

### 1

学術体制刷新委員会は、帝国学士院、学術研究会議、日本学術振興会を改組して、日本学術会議および科学技術行政協議会を生み出した、戦後改革期における科学者の組織である。委員会の活動を示す史料は、日本学術会議図書室に所蔵されている。戦後日本の科学技術政策・体制・行政の研究において学術体制刷新委員会を取り上げたものとしては、広重徹『戦後日本の科学運動』（1960年、中央公論社）がある。しかし、このときは学術体制刷新委員会資料そのものは使われていなかった。広重は、その後、学術会議所蔵資料を活用して、「科学研究体制の近代化－昭和科学史序説－」（広重徹『日本資本主義と科学技術』1962年、三一書房所収、後に広重徹『科学の歴史』1965年、みすず書房に再録）を著し、日本科学史学会『日本科学技術史大系・通史〈5〉』（全25巻、1964年、第一法規）では、総説執筆に加えて、「学術研究体制世話人会経過報告書」（『学術体制刷新委員会総会配付資料綴（第1回）』）など9点の資料を紹介した。

これもふまえて、その後、広重は、『科学の社会史』（1973年、中央公論社）「第10章 日本学術会議の成立」を執筆している。

また、『日本学術会議25年史』（日本学術会議、1974年）は、「日本学術会議前史」と題し、いわゆる3団体の改組と学術研究体制世話人会、学術体制刷新委員会の成立とその活動について詳細に紹介し（265～280頁）、「刷新委員会第2回総会におけるH. Cケリー博士のあいさつ」など、4点の資料を紹介し、内閣総理大臣への答申なども引用している。

学術体制刷新委員会は、『日本科学技術史大系』の再構成を目指した中山茂・後藤邦夫・吉岡斉『[通史] 日本の科学技術』（全5巻、学陽書房、1995年）においても、取り上げられた。同書では、新たにGHQ文書や占領担当者へのヒアリングも行い、中山茂「サイエンス・ミッションズの来日」、同「学術体制の再編」が書かれた（第1巻）。そこでは、同委員会が生み出した日本学術会議は、「いわば史上初めての学者の議会として、国際的にも注目されるべき試みであった」（139頁）と評価されている。

このように、科学史研究の側では、従来から取り上げられ、戦後の科学技術行政に大きな役割を果たしたものと評価されながら、学術体制刷新委員会の史料そのものの目録化や

紹介は行われてこなかった。また、戦後高等教育改革にも深い関わりを持つ学術体制刷新委員会の活動を、GHQの政策立案、指導援助と併せて分析し、戦後改革全体の中に位置づける作業も、まだ行われていない。

その理由としては、史料の収集・紹介・目録化という手続きを経て、歴史事実を同定する役割を持つ教育史学が、戦後教育改革研究を多数蓄積しながら、科学技術体制については、対象としてこなかったことがあげられよう。さらに、強く理由を求めれば、教育史学の戦後改革パラダイムが、大学改革の特質を、一般教育の導入、民主的社会の担い手の形成に求め、産業と科学の結合を提唱した学術体制刷新委員会や日本学術会議の役割を視野の外においたことを指摘できよう。筆者は、戦後改革を複層的な政策入力で捉えるべきと考えており、高等教育改革の政策原理を、CIE・米国対日教育使節団・教育刷新委員会・文部省ラインとESS/ST・米国学術顧問団・学術体制刷新委員会ラインとの対抗関係で把握する見地を提示したことがある（「戦後教育改革と科学・技術の諸問題」『講和独立後の我が国教育改革に関する調査研究』代表者渡部宗助，1992年）。1950年以降の日本社会・経済の展開とから見て、科学技術との連動性を分析せずに、戦後大学改革を把握することは不可能であろう。

また、戦後教育改革を担った教育刷新委員会は、戦後改革が占領軍の指示・命令で推進されたかのような理解、いわゆる「おしつけ」改革像を否定するに足る自主性とエネルギーを備えていたことが明らかにされてきた。だが、自主・自律性の点では、学術体制刷新委員会の方が優っていた。科学者の自主的な改革集団を起点にして、種々の問題は含むにせよ、選挙によって選ばれた委員によって構成された学術体制刷新委員会が、直接選挙制の日本学術会議を法制化させたのである（事務局サイドからの証言として岡野澄「戦後学術行政回顧録（第1回）」『学術月報』Vol. 47-No. 10, 1994年10月号）。学術体制刷新委員会は、研究の対象とするにたる魅力を備えている。

他方、学術体制刷新委員会を、日本の科学者集団の自発性の文脈に置いてのみ理解することも一面的に過ぎよう。学術体制刷新委員会が、既存3団体（帝国学士院、学術研究会議、日本学術振興会）の改革路線をうち破って全体をリードしたヘゲモニーは、ESS/STのケリーの強力な支持、バックアップ抜きにはあり得なかった。公式にケリーは、学術体制刷新委員会の議論に干渉することはなかったが、総会記録中の委員長一般報告から、委員会とケリーとは密接に連絡を取り合いながら、議事を進めていたことが窺える。しかし、この点に関する資料は、学術体制刷新委員会関係資料にはほとんど含まれておらず、全体像は、GHQ文書の検索と分析と併せ、日米双方から確かめる必要がある。中山茂「学術体制の再編」では、GHQ/SCAP Records, "Science Reorganization-Research Restoration Council, 1947 to JSC-No.5(Inquiries, Reports, Requests Exchanged with Government), 1951", Box No.7339, ESS(B)11589 ~ (B)11632 が資料としてあげられている。同ボックスには、マイクロフィッシュ44枚、ハードコピーにして約3000枚が所収されている。これらの資

料は、まだ十分に使いこなされていない。

最近の大学史編纂では、『名古屋大学五十年史 通史二』（1995年）で米国学術顧問団の視察を記述するなど(20頁)，科学技術史研究の成果も取り入れられつつあるが，学術体制刷新委員会に結集した各大学の委員や地方連絡委員会の活動は，まだ俎上にのってこない。大学史編纂は，歴史学・教育史のディシプリンを持つ研究者の参画によって発展しつつあり，その視角からは死角になりやすい。新制大学50年を控えての年史編纂が進められている現状では，課題の一つとなろう。

いずれにせよ，日本側史料の最も体系的なものとして，学術体制刷新委員会関係史料は，必須のものである。しかし，原史料は日本学術会議図書室にしかなく，しかも史料の劣化が進んでいるため，研究者は，直に訪れて，筆写するしかなかった。筆者は，前掲論文執筆のための史料収集作業の際に，接写カメラを持参して議事速記録（概要）などの撮影を行っていたが，そのときから完全な形でのマイクロ化と目録作成を企図していた。このたび，広島大学 大学教育研究センターマイクロ経費によってマイクロ化を行い，ネガフィルムを日本学術会議図書室に寄託し，ポジフィルムを広島大学 大学教育研究センターに収納することができた。撮影には，高橋情報システムに依頼し，目録作成については，広島大学大学院教育学研究科院生吉田香奈さん，大野亜由未さんがフィルムから目録を作成し，筆者が全面的に校訂した上で，日本学術会議を再度訪れ，現物と対照して訂正を加えた。資料保存の意味も込めて，マイクロ化は長年の念願であり，これを利用した研究が行われれば，これに優る喜びはない。また，撮影等に全面的に協力いただいた日本学術会議情報国際課河西龍夫氏には，厚く感謝申し上げます。

## 2

次に，史料の概略について説明しておこう。史料は大別して，総会配付資料及び事務資料簿冊9冊（リールNo. 1～No. 4）および速記録19冊（リールNo. 5～No. 16）に分かれる。総コマ数は，8,860コマにのぼる。

整理形式についてだが，事務局は，学術研究会議に置かれたので，作成主体は，学術研究会議である。総会配付資料綴という題名ではあるが，各種の草稿，メモ類も多数含まれ，件名目録が欠けているなど，官庁文書の保存形式に比べると荒さが目立つ。また，同一と思われる文書が，カーボン複写，タイプ，孔版など多様な形態で複数部所収されており，文書相互の関係や異動についての史料批判が必要である。

簿冊の中で最も重要な史料は，『学術体制刷新委員会総会配付資料綴（第2回）』，『学術体制刷新委員会総会配付資料綴（第3回）』，『学術体制刷新委員会総会配付資料綴（第4～5回）』に所収されている学術体制改革の諸提案である。提案は，30点を超え，個人・大学・学会など多様である。筆者は，官庁組織をこえて，これほど自発的な改革案



が族生した事例を占領期において外に知らない。その多くが、自然科学者の手になるものであり、教育刷新委員会による高等教育改革論議が、南原繁をはじめとする人文的素養の深い大正期の自由主義知識人（鈴木英一）を原動力としていたのに対比して興味深い。

また、学術体制刷新委員会の初期には、東京帝国大学中心であることなどの批判が寄せられたことに見られるように、その開放性・民主性も相対化してとらえる必要がある。端的なのは、早稲田大学による批判であり、前出『日本科学技術史大系・通史〈5〉』にも収録されていない。これは、資料として収録してある（47頁以下）。

次に、速記録は、原稿用紙に書かれており、公刊する予定があったのではないかと思われる。しかし、記録は、完全なものではない。第1回総会第1日、第7回総会第2日午後の一部が欠落している。欠落の理由は定かではないが、事務局の手で製本された簿冊に欠落していることから、かなり早い時期に、欠けたものと思われる。しかし、議事については、毎回総会記録概要が作成されて、次回総会に配布されているので、概要によってもかなり状況は把握できる。

目録は、資料の名称、作成者、日時、形態、印刷形態、頁数を記し、必要に応じて〔〕内に筆者の推定を加えた。ただし、作業のほとんどを、マイクロフィルムによって行ったので、形態、印刷形態については不確かな部分がある。

最後に、目録作成の最終段階で、学術会議を訪れた際、学術体制刷新委員会委員渡邊武男氏（当時東京大学理学部教授）のファイル2冊、学術研究会議解散関係の資料などを含む簿冊8点が発見されたことを河西氏より教えられた。渡邊ファイルには、学術体制刷新委員会から発送された文書、および渡部氏が属していた特別委員会関係の資料が整理されており、総会配付資料では知ることの出来ない委員会の活動も把握できる。今回、これらの史料を加えることは出来なかったが、これらの史料も順次マイクロ化および目録作成を行い、『学術体制刷新委員会関係資料目録（補遺）』として刊行する予定である。その点では、この目録も、学術体制刷新委員会の全貌を把握する上での中間的作業であることをお断りしておく。

## 2. 学術体制刷新委員会関係資料目録

### リールNo. 1

#### 『学術体制刷新委員会総会配付資料綴（第1回）』

1. 印刷物目次，孔版，1枚.
2. 学術体制刷新委員会第1回総会日程，活版，1枚.
3. 学術体制刷新委員会第1回総会日程，手書き，1枚.〔2の草稿〕
4. 学術体制刷新委員会第1回総会日程，学術研究会議用紙，手書き，1枚.
5. 学術体制刷新委員会発会式に於ける刷新委員会代表湯川秀樹挨拶，学術研究会議タイプ用箋，タイプ，9頁.〔6の草稿，2部あり〕
6. 学術体制刷新委員会発会式に於ける刷新委員会代表湯川秀樹挨拶，タイプ孔版，7頁.
7. 学術体制刷新委員会発会式に於ける片山総理大臣挨拶，タイプ孔版，5頁.
- 8.〔表題なし〕，学術研究会議用紙，手書き，12頁，〔アダムズ博士挨拶翻訳草稿〕.
9. 米国学術顧問団代表アダムズ博士挨拶，タイプ孔版，6頁.
10. 学術研究体制世話人経過報告書，学術研究会議用箋，カーボン，12頁.  
〔11の原稿，2部あり〕
11. 学術研究体制世話人経過報告書，孔版，7頁.
12. 学術研究体制世話人会より学術体制刷新委員会への引継事項，ノートに手書き，2枚.〔13の草稿〕
13. 学術研究体制世話人会より学術体制刷新委員会への引継事項，学術研究会議用箋，タイプ，3頁.〔14の原稿，2部あり〕
14. 学術研究体制世話人会より学術体制刷新委員会への引継事項，孔版，3頁.
15. 学術体制刷新委員会最終選定人地域別調，孔版，24頁.
16. 科学研究費の処理覚書，タイプ孔版，1枚.〔裏にメモ書きあり〕
17. Contents，手書き，1枚.〔18の草稿〕
18. Contents，タイプ，1枚.
19. Opening Ceremonial Meeting of Renewal Committee (25th August) at the official residence of the Premier，手書き，1枚.〔20の草稿〕
20. Program: Opening Ceremonial Meeting of Renewal Committee(25th August) at the official residence of the Premier，タイプ，1枚.
21. Adress<sup>ママ</sup> by YUKAWA Hideki, Representative of the Members of the Renewal Co-

- mmittee for Scientific Organization at the Inauguration Ceremony of the Co-  
mmittee, 手書き, 12頁. [22の草稿]
22. Address<sup>マ</sup> by YUKAWA Hideki, Representative of the Members of the Renewal Co-  
mmittee for Scientific Organization at the Inauguration Ceremony of the Co-  
mmittee, タイプ, 4頁. [訂正あり]
  23. Address<sup>マ</sup> by YUKAWA Hideki, Representative of the Members of the Renewal Co-  
mmittee for Scientific Organization at the Inauguration Ceremony of the Co-  
mmittee, タイプ, 4頁. [22. の校正]
  24. Address by YUKAWA Hideki Representative of the Members of the Renewal Co-  
mmitee for Scientific Organization at the Inauguration Ceremony of the Co-  
mmittee, タイプ孔版, 7頁. [23. の修正にもとづく成文]
  25. Address by Premier Katayama, 手書き, 5枚. [26の草稿]
  26. Address by Premier Katayama, タイプ, 2頁. [3部あり]
  27. Address by Premier Katayama, タイプ孔版, 4頁.
  28. Address by Roger Adams : For the Scientific Advisory Group, タイプ, 4頁.  
[鉛筆での記入あり].
  29. Address by Roger Adams: For the Scientific Advisory Group, タイプ, 4頁.
  30. Address by Roger Adams: For the Scientific Advisory Group, タイプ孔版, 4頁.
  31. [題名なし] 「至急 刷新委員英文名ボ 原稿供覧しますからお気づきの点あらば訂  
正して下さい 二十日」, 学術研究会議原稿用紙, 1枚, 手書き.
  32. List of Members of the Renewal Committee 25 August, 学術研究会議原稿用紙, 6  
枚, 手書き. [39の草稿]
  33. [題名なし], 鉛筆での走り書きメモ, 1枚.
  34. List of Members of the Renewal Committee (-25. August 1947), タイプ, 5頁.  
[訂正あり]
  35. List of Members of the Renewal Committee -25. August 1947, タイプ, 5頁.
  36. Report of the Preparatory Committee for the Scientific Research Structure,  
13頁, 手書き. [37の草稿]
  37. Report of the Preparatory Committee for the Scientific Research Structure,  
タイプ, 11頁.
  38. 学術研究体制世話人会より学術体制刷新委員会への引継事項, 学術研究会議用箋,  
タイプ, 3枚.
  39. Matters transferred to the Science Structure Renewal Committee from the Pre-  
paratory Committee for the Renewal Committee of Scientific Research Struc-

- ture, 4枚, 手書き. [40の草稿]
40. Matters transferred to the Science Structure Renewal Committee from the Preparatory Committee for the Renewal Committee of Scientific Research Structure, タイプ, 3頁.
  41. [題名なし], 手書きメモ, 1枚.
  42. [題名なし], 学術研究会議議長片山直人から米国学士院 Dr. Frank B. Jewettへの書簡の原稿, 1947年8月26日, National Research Council of Japan のタイプ用紙, タイプ, 1枚.
  43. [題名なし], メモ, 1枚. [「先般の手紙ノ方ハ打直して27日に Prof. Adamsに渡した。これはその写であるから保存を頼む……亀山」]
  44. Speech (to be given) by Dr. Harry C. Kelly, Aug. 25 1947, タイプ, 2頁.
  45. [題名なし], メモ, 1枚.
  46. Address by Premier Katayama, 日付なし, タイプ, 3頁. [一部加筆あり]
  47. Address by Premier Katayama, 日付なし, タイプ, 3頁.
  48. Address by Premier Katayama, 日付なし, タイプ, 4頁. [大幅な修正あり]
  49. Address by YUKAWA Hideki, Representative of the Members of the Renewal Committee for Scientific Organization at the Inauguration Ceremony of the Committee, 日付なし, タイプ, 6頁. [2部あり]
  50. Address by YUKAWA Hideki, Representative of the Members of the Renewal Committee for Scientific Organization at the Inauguration Ceremony of the Committee, 日付なし, タイプ, 7頁. [大幅修正加筆あり, 手書きメモ1枚挿入]

## 『学術体制刷新委員会総会配布資料綴 (第2回)』

1. 学術刷新委員会第二回総会日程, タイプ, 1頁.
2. 学術体制刷新委員会第一回総会記録 (概要), 孔版, 8頁.
3. Speech to be given by Harry C. Kelly, Aug. 25, 1947, タイプ孔版, 2頁.
4. Address by Dr. Rojor<sup>マ</sup> Adams for Scientific Advisory Group, タイプ, 4頁.
5. Address by Dr. Rojor<sup>マ</sup> Adams for Scientific Advisory Group, タイプ, 10頁.
6. 学術体制刷新委員会会則草案, 孔版, 2頁.
7. 学術体制刷新委員会会則草案, 学術研究会議便箋, 手書き, 3枚.
8. 学術体制刷新委員会会則草案, 学術研究会議用箋, 手書き, 5頁, [加筆修正あり]

9. 学術体制刷新委員会議事規則草案, 孔版, 1頁.
10. 学術体制刷新委員会議事規則草案, 学術研究会議便箋, 手書き, 2枚.
11. 学術体制刷新委員会議事規則草案, 学術研究会議用箋, 手書き, 3頁.  
〔加筆修正あり〕
12. 学術体制刷新委員会地方委員会規則草案, 孔版, 2頁.
13. 学術体制刷新委員会地方委員会規則草案, 学術研究会議便箋, 手書き, 2枚.
14. 学術体制刷新委員会地方委員会規則草案, 学術研究会議用箋, 手書き, 3頁.
15. 学術体制刷新委員会第一回總會記録(概要), 第一日, 孔版, 4頁.  
〔学術体制刷新委員会委員名簿を貼付し, 出欠記録に利用〕
16. 第二日, 孔版, 5頁. 〔学術体制刷新委員会委員名簿を貼付し, 出欠記録に利用〕
17. 学術体制刷新委員会第一回總會記録(概要), 孔版, 8頁.
18. 昭和二十二年八月二十六日東大図書館における米国学術顧問団代表アダムス博士の演説, 手書き, 20頁. 〔19の草稿, メモ1枚挿入〕
19. 昭和二十二年八月二十六日東大図書館における米国学術顧問団代表アダムス博士の演説, 孔版, 14頁.
20. 昭和二十二年八月二十五日首相官邸におけるハーリ・C・ケーリ博士の挨拶, 手書き, 5頁. 〔21の草稿, 加筆修正多数〕
21. 昭和22年8月25日首相官邸におけるハーリ・C・ケーリ博士の挨拶, 孔版, 3頁.
22. 科学渉外連絡会有志の学術体制案概要, 北海道化学協会原稿用紙, 手書き, 12枚.  
〔23の草案, 修正加筆あり〕
23. 科学渉外連絡会有志の学術体制案概要(二一年九月), 孔版, 6頁.
24. 農業科学技術に関する調査研究並びに普及体制改善案, 二二. 六. 一四改訂, 孔版, 10頁.
25. 人文科学関係の有志による新学術研究体制案, タイプ孔版, 5頁. 〔加筆修正あり〕
26. 人文科学関係の有志による新学術研究体制案, 孔版, 4頁.
27. 学術研究体制についての諸意見, 京都大学, 手書き, 28頁. 〔29の草稿〕
28. Various Views on Scientific Research Constitution, KYOTO UNIVERSITY, タイプ活版, 12頁.
29. 学術研究体制についての諸意見, 京都大学, 孔版, 19頁.
30. 学術研究体制に関する意見書, 早稲田大学, タイプ孔版, 4頁.
31. 早稲田大学総長 島田孝一から学術体制刷新委員会委員長 兼重寛九郎あて, 昭和22年9月5日.
32. 日本学術研究体制刷新の要綱(慶応義塾案), 孔版, 2頁.
33. 九月十七, 十八日, 学術体制刷新委員会第二回總會配布 新聞記者名刺控, 3頁.

## 『学術体制刷新委員会総会配布資料綴（第3回）』

1. 学術体制刷新委員会第二回総会記録（概要），孔版，22頁.
2. 学術体制刷新委員会第二回総会におけるケリー博士の演説（昭和二二年九月一七日，於帝国学士院），孔版，7頁.
3. Address by Dr. H. C. Kelly to the Renewal Committee, 17 Sept 1947, at Imperial Academy, Ueno Park, タイプ，5枚。〔加筆あり〕
4. Address by Dr. H. C. Kelly to the Renewal Committee, 17 Sept 1947, at Imperial Academy, Ueno Park, タイプ，7頁.
5. 学術体制刷新委員会第二回総会記録（概要），孔版，22頁.
6. 学術体制刷新委員会第二回総会記録（概要），手書き，31頁。〔5の草稿〕
7. 学術体制について，世田谷区北沢五の八五一 百瀬好若，手書き，5枚.
8. 学術体制一覧表，手書き，世田谷区北沢五の八五一 百瀬好若，1枚.
9. 〔学術体制について 百瀬好若〕，孔版，4頁。〔7，8を孔版にしたもの〕
10. 〔歴史学研究会〕，一九四七．一〇．六，手書き，8頁.
11. 提案第二号 歴史学研究会，一九四七．一〇．六，孔版，5頁。  
〔10を孔版にしたもの〕
12. 提案第三号 日本学士院の構成及運営（慶應義塾大学案），孔版，3頁。  
〔「OCT 9 1947」と捺印〕
13. 提案第三号 日本学士院の構成及運営，慶應義塾大学，孔版，4頁。  
〔12を孔版にしたもの〕
14. 学術の研究，行政に関する新しい体制の提案，民主主義科学者協会，昭和二十二年十月十七日，手書き，2枚.
15. 提案第四号 学術の研究，行政に関する新しい体制の提案，民主主義科学者協会，昭和二十二年十月十七日，孔版，3頁.
16. 学術の研究，行政に関する新しい体制の提案，民主主義科学者協会，昭和二十二年十月十三日，タイプ孔版，3頁。〔「提案第四号」と記入あり〕
17. 科学技術体制刷新案，昭和二二・十・九，医学渉外連絡会有志，孔版，7頁.
18. 工業技術渉外連絡会幹事長 井上泰成から 学術体制刷新委員会委員長 兼重寛九郎あて，科学技術体制刷新案の送附に関する件，昭和二二年十月十日，タイプ，1枚。  
〔「提案第五号」と記入〕

19. (科学技術体制刷新案第一部) 科学技術振興法案要綱, 工業技術涉外連絡会, 昭二二・一〇・一, 孔版, 13頁.
20. (科学技術体制刷新案第二部) 科学技術審議会規程案, 工業技術涉外連絡会, 昭二二・一〇・一, 孔版, 15頁.
21. (科学技術体制刷新案第三部) 官庁機構及び民間実施機関等の刷新に関する意見, 工業技術涉外連絡会, 昭二二・一〇・九, 孔版, 4頁.
22. (科学技術体制刷新案附属書) 科学技術振興法案要綱及科学技術審議会規程に就て, 工業技術涉外連絡会, 昭二二・一〇・一, 孔版, 11頁.
23. 提案第六号 科学技術体制刷新案, 昭和二二・十・九, 医学涉外連絡会有志, 孔版, 7頁.
24. 提案第七号 科学涉外連絡会有志案, 名古屋帝国大学数学教室, 手書き, 19枚.
25. 提案第七号 科学涉外連絡会有志案, 孔版, 7頁. [24を孔版にしたもの]
26. 学術研究体制に関する意見書, 早稲田大学, タイプ孔版, 3頁. [加筆修正あり]
27. 提案第八号 学術研究体制に関する意見書, 早稲田大学, 孔版, 2頁.
28. 新学術研究体制に関する提案, 早稲田大学, タイプ, 3頁.
29. 学術体制刷新委員会宛提出せられた意見書の分類, 孔版, 4頁.
30. 提案第拾号 学術新体制案 最高科学者会議(仮称), 孔版, 10頁.
31. 提案第十号 学術新体制案 最高科学者会議(仮称), 孔版, 7頁.  
[30を孔版にリライト]

## リールNo. 2

### 『学術体制刷新委員会総会配布資料綴(第4～5回)』

1. 学術体制刷新委員会第三回総会記録(概要), 第一日, 昭和22年10月24日, 孔版, 21頁. [2部あり]
2. 学術体制刷新委員会第三回総会記録(概要), 第一日, 手書き, 35頁. [1の草稿]
3. 学術体制刷新委員会事務局, 学術体制刷新委員会名簿, 孔版, 4頁.
4. 学術体制刷新委員会事務局, 学術体制刷新委員会名簿, タイプ, 4頁.
5. 提案第一号抄録 提案者 百瀬好若, 孔版, 2頁.
6. 提案第二号抄録 学術体制刷新に関する提案 提案者 歴史学研究会, 孔版, 2頁.
7. 提案第三号抄録 学術体制刷新に関する提案 提案者 慶応義塾大学, 孔版, 2頁.

8. 提案第四号抄録 学術の研究・行政に関する新しい体制の提案（抄） 提案者 民主主義科学者協会, 孔版, 2頁.
9. 提案第五号抄録 学術体制刷新に関する提案 提案者 工業技術渉外連絡会, 孔版, 2頁.
10. 提案第六号抄録 学術体制刷新案提案抄録 提案者 医学渉外連絡会有志, 孔版, 2頁.
11. 提案第七号抄録 科学渉外連絡会有志案概要, 孔版, 3頁.
12. 提案第八号抄録 学術新体制の組織機構に関する提案 提案者 早稲田大学, 孔版, 2頁.
13. 提案第九号抄録 人文科学関係有志案要旨, 孔版, 2頁.
14. 提案第十号抄録 最高科学者会議 提案者 小倉金之助 他4名, 孔版, 1頁.
15. 世話人会宛に提出せられたる意見書の分類, 孔版, 1頁.
16. 世話人会宛に提出せられたる意見書の分類, 手書き, 1頁.
17. 意見書第三一号 新学術体制案要項 浦和高校教授 理博 沼野井春雄, 孔版, 4頁.
18. 学術体制刷新委員会委員各部門毎選挙方法一覧表, 孔版, 6頁.
19. 学術体制刷新委員会委員選挙結果一覧表, 孔版, 1枚.
20. 学術体制刷新委員会委員各部門毎選挙方法一覧表, 孔版, 6頁.
21. 学術体制刷新委員会委員各部門毎選挙方法一覧表, 学術研究会議会用箋, 手書き, 3頁.
22. 学術体制刷新委員会委員選挙結果一覧表, 孔版, 2頁.
23. 学術体制刷新委員会委員選挙結果一覧表, 手書き, 2頁.
24. 学術体制刷新委員会宛提出せられた意見書の分類, 孔版, 4頁.
25. 学術体制刷新委員会宛提出せられた意見書の分類, 手書き, 2枚.
26. 米国学術顧問団に提出せる諸団体の学術体制に関する意見書の分類, 孔版, 6頁.
27. 米国学術顧問団に提出せる諸団体の学術体制に関する意見書の分類, 手書き, 6枚.
28. 一, 科学技術審議会 二二・一一・五決定 二, 農業科学技術に関する調査研究並びに普及体制改善案 二二・六・一四決定 二二・一一・五追加修正, 農業渉外連絡会, 孔版, 12頁.
29. 学術体制刷新委員会第四回総会記録（概要）, 孔版, 29頁.
30. 第五回総会配布資料, 学術研究会議用箋, 手書き, 1枚.
31. 学術体制刷新委員会第五回総会日程, タイプ, 1枚.
32. 学術体制刷新委員会第四回総会記録（概要）, 手書き, 44頁. [29の草稿]
33. 学術体制刷新委員会第四回総会記録（概要）, 孔版, 29頁. [29と同一]
34. 審議機関に関する特別委員会の審議事項, 手書き, 5頁. [35の草稿]



35. 審議機関に関する特別委員会の審議事項，孔版，2頁。
36. 行政機構に関する検討委員会A案〔学術体制案概要 住木論介〕，孔版，2頁。  
〔37.の草稿〕
37. 行政機構に関する検討委員会A案，孔版，2頁。〔2部あり〕
38. 行政機構に関する特別委員会B案〔学術体制刷新案概要 井上委員〕，孔版，6頁  
〔39の草稿〕。
39. 行政機構に関する特別委員会B案，孔版，4頁。
40. 東京文理科大学職組委員長 牛来正夫，意見書第三六号 選挙に関する意見 学術体制刷新委員会 北海道地方連絡委員会，孔版，4頁。
41. 学術体制刷新案，日本私学団体総連合会々長 呉文炳，意見書第三八号 東京商科大学長，3頁。
42. 選挙に関する特別委員会審議項目，タイプ孔版，2頁。
43. 行政機構に関する議案，タイプ孔版，2頁。
44. 選挙に関する特別委員長報告要旨，民主主義研究特別委員会原稿用紙，手書き，7頁。  
〔45の草稿〕
45. 〔表題なし〕，孔版，2頁。

### 『学術体制刷新委員会総会配布資料綴（第6～7回）』

1. 学術体制刷新委員会第五回総会記録（概要），昭和22年12月22日，孔版，25頁。
2. 学術体制刷新委員会第五回総会記録（概要），手書き，33頁。〔1の草稿〕
3. 学術体制刷新委員会第五回総会記録（概要），昭和22年12月22日，孔版，25頁。  
〔1と同じ〕
4. 科学技術行政機構に関する議案，原稿用紙，手書き，3枚。〔5の草稿〕
5. 科学技術行政機構に関する議案，孔版，2頁。
6. 科学技術行政機構に関する議案，原稿用紙，手書き，10枚。〔加筆修正多数〕  
〔7の草稿〕
7. 科学技術行政機構に関する議案，孔版，5頁。
8. 審議機関に関する主要問題についての討論議決，用箋，手書き，6頁。  
〔9の草稿〕
9. 審議機関に関する主要問題についての討論議決，孔版，4頁。
10. 学術新体制科学渉外連絡会有志案（後篇），孔版，5頁。

11. 選挙に関する特別委員長報告要旨 於一月三十一日総会，民主主義研特別委員会原稿用紙，筆書き，2枚。〔12の草稿〕
12. 選挙に関する特別委員長報告要旨 於1月31日総会，孔版，2頁。
13. 学術体制刷新委員会第六回総会記録（概要），孔版，43頁。
14. 学術体制刷新委員会第七回総会日程，タイプ，2頁。
15. 学術体制刷新委員会第六回総会記録（概要），手書き，67頁。〔13の草稿〕
16. 学術体制刷新委員会第六回総会記録（概要），孔版，43頁。〔15と同じ〕
17. 日本学術会議（仮称），孔版，12頁。
18. 科学技術協力議会並に科学振興を担当する主務省に関する案及び議案，孔版，4頁。
19. 選挙に関する審議事項，孔版，2頁。
20. 学刷委の審議進むも具体化なお道通し，『科学文化新聞』，昭和21年6月7日記事。
21. 日本学術会議，孔版，1枚。
22. 科学技術協議会並に科学振興を担富する行政機関に関する案及議案，孔版，6頁。
23. 選挙に関する議決事項，孔版，6頁。
24. 〔題名なし〕，学術研究会議メモ用紙，1枚。〔「昭和二三年貳月二八日」と捺印，「第七回総会后印刷」と記入〕
25. 学術体制刷新委員会第七回総会議決事項，用箋，手書き，1枚。
26. 日本学術会議〔（案）〕，孔版，加筆修正多数あり，12頁。
27. 学術体制刷新委員会 第七回総会議決事項，孔版，9頁。
28. 第二 選挙に関する議決事項，学術研究会議便箋，手書き，9枚。〔30の草稿〕
29. 各部専門別定員表，孔版，1枚。〔「仮決定」と記入，28の附属資料〕
30. 第二 選挙に関する議決事項，孔版，6頁。
31. 第三 行政機構に関する議決事項，学術研究会議便箋，手書き，1枚。
32. 科学技術協議会並に科学振興を担富する行政機関に関する案及議案，孔版，6頁。
33. 第三 行政機構に関する議決事項，孔版，5頁。
34. 新学術体制について，学術体制刷新委員会（二三・二・二八），孔版，20頁。
35. 〔表題なし〕，学術研究会議用箋，手書き，2枚。〔「②」「③」と記入あり，専門分野別学会の選挙方法一覧〕

## 『学術体制刷新委員会総会配布資料綴（第8回）』

1. 学術体制刷新委員会第七回総会記録（概要），孔版，44頁。

2. 学術体制刷新委員会第八回総会日程，タイプ孔版，2頁.
3. 学術体制刷新委員会公聴会記録（概要），手書き，25頁.〔4の草稿〕
4. 学術体制刷新委員会公聴会記録（概要），孔版，24頁.
5. 日本学術会議会員選挙規則，学術研究会議用箋，手書き，23頁.  
〔8の草稿，修正多数〕
6. 別表 各部門専門別定員表，孔版，1頁.
7. 第三 既存学術団体の措置について，孔版，1頁.
8. 日本学術会議会員選挙規則，孔版，6頁.
9. 選挙管理委員会規則，学術研究会議用箋，手書き，4頁.〔10の草稿〕
10. 選挙管理委員会規則，孔版，2頁.
11. 科学技術行政協議会を設置する必要，原稿用紙，手書き，2枚.〔17の草稿〕
12. 科学技術行政協議会要綱，原稿用紙，手書き，3枚.
13. 科学技術行政協議会を設置する必要，孔版，1頁.
14. 科学技術行政協議会要綱，孔版，2頁.
15. 科学技術行政協議会，学術研究会議便箋，手書き，2枚.〔16の草稿〕
16. 科学技術行政協議会，孔版，1頁.
17. 科学技術行政協議会に関する審議事項，学術研究会議便箋，手書き，10頁.  
〔18の草稿〕
18. 科学技術行政協議会に関する審議事項，孔版，6頁.
19. 科学振興に対する「委員会」と「省」とを比較せる得失，東京都戦時生活局町会課原稿用紙，手書き，2枚.〔20の草稿〕
20. 科学振興に対する「委員会」と「省」とを比較せる得失，孔版，1枚.
21. 委員長一般報告資料，昭和二十三年三月二十三日，連合軍総司令部経済科学局科学技術課，孔版，2頁.
22. 学術体制刷新委員会第七回総会記録（概要），手書き，68頁.
23. 学術体制刷新委員会第七回総会記録（概要），孔版，44頁.〔1と同じ〕
24. 日本学術会議法（案），孔版，12頁.〔25の草稿，加筆修正あり〕
25. 日本学術会議法（案），孔版，6頁.
26. 日本学術会議会則（案），手書き，6頁.〔27.の草稿，加筆修正あり〕
27. 日本学術会議会則（案），孔版，5頁.
28. 選挙管理委員会規則，孔版，2頁.〔修正あり〕
29. 選挙管理委員会規則，孔版，2頁.
30. 日本学術会議会員選挙規則，孔版，修正あり，6頁.
31. 日本学術会議会員選挙規則，孔版，6頁.

32. 昭和二十三年〇月〇日 学術体制刷新委員会委員長 内閣総理大臣宛 新学術体制の立案について，学術研究会議用箋，手書き，20頁．〔33の草稿〕
33. 学術体制刷新委員会委員長 内閣総理大臣宛 新学術体制の立案について，孔版，6頁．〔34. の草稿，修正多数〕
34. 学術体制刷新委員会委員長 内閣総理大臣宛 新学術体制の立案について，孔版，4頁．
35. 声明書，昭和二十三年三月二十七日，学術体制刷新委員会，2頁．

## リールNo. 3

### 『学術体制刷新委員会総会配布資料綴(最終回)』

1. 学術体制刷新委員会第八回総会記録(概要)，手書き，81頁．〔2の草稿〕
2. 学術体制刷新委員会第八回総会記録(概要)，昭和23年3月25日，孔版，49頁．  
〔2部あり〕
3. 第一回日本学術会議会員選挙規則，孔版，6頁．
4. 第八回学術体制刷新委員会総会に於ける H. C. ケリー博士挨拶訳文，昭和二十三年三月二十七日，日本学士院に於ける学術体制刷新委員会第八回総会に於いて，孔版，3頁．
5. 選挙に関する提案，孔版，1頁．
6. 一般的事項に関する提案，孔版，1頁．
7. 総理大臣への報告文，昭和二十三年四月八日，学術体制刷新委員会委員長 兼重寛九郎，内閣総理大臣 芦田均，学術体制の立案について，孔版，4頁．
8. H. C. ケリー博士挨拶訳文，昭和二十三年三月二十七日，手書き，7頁．
9. 第八回学術体制刷新委員会総会に於けるH. C. ケリー博士挨拶訳文，昭和二十三年三月二十七日，孔版，3頁．〔4と同じ〕
10. 選挙に対する提案，原稿用紙，手書き，1枚．〔12の草稿〕
11. 一般的事項に関する意見，原稿用紙，手書き，1枚．〔13の草稿〕
12. 選挙に対する提案，孔版，1頁．
13. 一般的事項に関する意見，孔版，1頁．
14. 学術体制刷新委員会委員長 兼重寛九郎，内閣総理大臣 芦田均，学術体制の立案に

- ついて、タイプ、7頁。〔「総理大臣への報告文」と記入あり〕
15. 総理大臣への報告文，昭和二十三年四月八日，学術体制刷新委員会委員長 兼重寛九郎，内閣総理大臣 芦田均，孔版，4頁。
  16. 〔委員長一般報告資料〕 昭和二十三年三月二十三日，連合軍総司令部経済科学局科学技術課，孔版，2頁。〔「総司令部了解事項訳文」と記入あり〕
  17. 総司令部了解事項訳文，昭和二十三年三月二十三日，連合軍総司令部経済科学局科学技術課，孔版，2頁。
  18. 日本学術会議法 要綱，孔版，11頁。〔修正あり〕
  19. 日本学術会議法要綱，孔版，5頁。
  20. 日本学術会議会則(案)，孔版，4頁。
  21. 日本学術会議会員選挙規則(案)，孔版，6頁。〔付箋による訂正あり〕
  22. 日本学術会議会員選挙規則(案)，孔版，6頁。
  23. 第一回日本学術会議会員選挙規則，タイプ孔版，8頁。
  24. 第一回日本学術会議会員選挙規則，孔版，6頁。
  25. 第一回日本学術会議会員選挙管理委員会規則，タイプ孔版，2頁。
  26. 第一回日本学術会議会員選挙管理委員会規則，孔版，2頁。
  27. 科学技術行政に関する件，タイプ，3頁。
  28. 科学技術行政に関する件，孔版，2頁。

## 『学術体制刷新委員会関係新聞記事切抜綴，昭和22年8月24日起』

1. 学術体制刷新委員会総会配付資料配布先新聞記者名刺控，八月二十五日，学術研究会議，4頁。
2. 昭和22年8月24日 朝日新聞 社説 学術刷新委員会とその運用。
3. 昭和22年8月24日 日本経済新聞 社説 学術刷新委員会の刷新。
4. 昭和22年8月26日 東京新聞 学術体制刷新委員会第一回総会開く。
5. 昭和22年8月26日 時事新報 学術体制刷新委員会・初の総会。
6. 昭和22年8月26日 毎日新聞 学術体制刷新へ。
7. 昭和22年8月26日 朝日新聞 学術体制刷新委員会初顔合わせ。
8. 昭和22年8月26日 読売新聞 学術体制刷新委員会の発足 科学と国民生活を直結。
9. 昭和22年8月27日 朝日新聞 “大学の獨立が大切”，ア博士，学術体制刷新に忠言。

10. 昭和22年 8月27日 毎日新聞 委員長に兼重氏 学術体制刷新委員会.
11. 昭和22年 8月27日 読売新聞 兼重氏が当選 学術体制刷新委員長.
12. 昭和22年 8月27日 東京新聞 学術体制刷新委員会総会第二日.
13. 昭和22年 8月27日 時事新報 学術委員長に兼重東大教授.
14. 昭和22年 8月27日 東京民報 社説 学術体制刷新委員会を改組せよ.
15. 昭和22年 8月27日 東京民報 東大教授が過半数 学術体制刷新委員会 顔ぶれに不満の声.
16. 昭和22年 8月20日 医事通信 学術体制刷新漸次具体化す.
17. 昭和22年 9月 9日 毎日新聞 余録.
18. 昭和22年 9月15日 読売新聞 嵯峨根遼吉 科学の危機.
19. 昭和22年 9月18日 毎日新聞 学術刷新委員会.
20. 昭和22年 9月19日 時事新報 私学の“爆弾動議” 刷新総会.
21. 昭和22年 9月 5日 科学文化新聞 学術三団体と議院代表 学刷委の臨時委員 十七日の第二回総会で協議.
22. 昭和22年 9月 5日 科学文化新聞 学刷委員会を迎えるまで.
23. 昭和22年 9月11日 帝国大学新聞 学術体制 刷新委員会 近く総会 機構運営を検討.
24. 昭和22年 9月25日 帝国大学新聞 論説 学術体制の審議.
25. 昭和22年 9月25日 帝国大学新聞 学術体制審議の幕開く.
26. [日付なし] Stars and Stripes ‘Brilliant Future’ For Japan, Says Scientist
27. 昭和22年10月 9日 東京大学新聞 尾高朝雄 「誤解」と「曲解」=刷新委員会の立場から=
28. 昭和22年10月23日 東京大学新聞 使命と提案を討論 二四・五日第三次総会
29. 昭和22年10月24日 時事新報 学術刷新総会
30. 昭和22年10月25日 時事新報 科学と政治 刷新委員会第二日
31. 昭和22年11月 4日 毎日新聞 社説 学術体制刷新委員会に望む
32. 昭和22年10月30日 東京大学新聞 “学問と政治”で熱論 問題整理に五特別委員会
33. 昭和22年12月 1日 朝日新聞 科学者と政治 尾高朝雄 限界を超えるな  
茅誠司 政治家に科学が解るか
34. 昭和22年12月 3日 朝日新聞 社説 学術新体制と科学行政機関
35. 昭和22年12月 3日 日本経済新聞 軍事占領終了後に米民間人の援助 米化学協会理事長 アダムス博士強調
36. 昭和22年12月25日 日本経済新聞 法律で審議機関設置

37. 昭和22年11月4日 東京大学新聞 続々と新体制案
38. 昭和23年1月1日 東京大学新聞 学界 科学をどう政治に
39. 昭和23年1月13日 時事新報 潮田江次 学術体制は刷新されるか
40. 昭和23年1月22日 東京大学新聞 論説 研究難の打開
41. 昭和23年2月5日 東京大学新聞 科学者会議を設置す 新学術体制の要綱決る
42. 昭和23年2月9日 朝日新聞 刷新委員会の成果—科学者の政治進出に一線—
43. 昭和23年2月15日 科学文化新聞 学刷委の議論進も 具体化なお道遠し
44. 昭和23年2月15日 科学文化新聞 経済科学局科学技術部副部長 H・C・ケリー  
科学研究と刷新委員会
45. 昭和23年2月26日 東京新聞 学士院など三団体一元化 “日本学術会議”へ 内閣  
に科学技術協議会も新設
46. 昭和23年2月26日 読売新聞 「日本学術会議」
47. 昭和23年3月1日 読売新聞 尾高朝雄 科学復興のために 日本学術会議について
48. 昭和23年3月4日 東京大学新聞 審議最終段階へ 学術体制刷新委総会終る
49. 昭和23年3月4日 東京大学新聞 論説 日本学術会議とその選挙方式
50. 昭和23年3月6日 日本産業経済 研究者養成に委員会
51. 昭和23年3月16日 読売新聞 科学 河角廣 恵まれぬ科学者
52. 昭和23年3月18日 東京大学新聞 学術新体制 公聴会開く
53. 昭和23年3月22日 毎日新聞 学芸 平野義太郎 日本学術会議 全科学者の総意を  
結集せよ
54. 昭和23年3月22日 朝日新聞 学芸 林春雄 年をとる動物
55. 昭和23年3月26日 時事新報 学術会議法案可決
56. 昭和23年3月28日 時事新報 政治に“科学注入” 科学技術行政協議会生まる
57. 昭和23年3月28日 朝日新聞 新体制実現へ 日本学術会議
58. 昭和23年3月28日 毎日新聞 学士院を改組 米科学視察団勧告
59. 昭和23年3月30日 読売新聞 「日本学術会議」の法案化
60. 昭和23年3月27日 日本経済新聞 学術行政を改革せよ 米国科学諮問団の報告書
61. 昭和23年4月5日 朝日新聞 社説 日本学術会議について
62. 昭和23年4月8日 東京大学新聞 学術体制刷新案きまる 日本学術会議設立 科学  
行政に建議勧告
63. 昭和23年4月8日 東京大学新聞 論説 学術新体制審議完了に際し
64. 昭和23年4月29日 東京大学新聞 柘植秀臣 大衆の力で平和を 新学術体制の出発  
に當つて
65. 昭和23年5月7日 東京大学新聞 学術新体制 学術会議 所管で行悩む

66. 昭和23年5月17日 朝日新聞 新文部省・六月に発足 文化の自由な発展を目標に
67. 昭和23年6月5日 読売新聞 日本学士院・冠を曲げる 「学術会議」に不満 来週、閣議で注目の裁定
68. 昭和23年6月3日 東京大学新聞 学士院 独立したい
69. 昭和23年6月9日 時事新報 日本学術会議法案
70. 昭和23年6月11日 東京新聞 明春から発足 学術会議法案国会へ
71. 昭和23年6月11日 朝日新聞 学術会議法案 国会へ提出
72. 昭和23年6月11日 時事新報 学士院もこの中に 日本学術会議
73. 昭和23年6月10日 東京大学新聞 論説 学界の諸問題
74. 昭和23年6月10日 東京大学新聞 学術会議法 閣議を通過 学士院の異議は国会で解決
75. 昭和23年6月14日 朝日新聞 悩む学術会議
76. 昭和23年6月15日 科学文化新聞 漸く国会に提出 閣議決定 日本学術会議法案
77. 昭和23年6月15日 科学文化新聞 選挙管理地方委員決まる
78. 昭和23年6月15日 科学文化新聞 社説 学士院の策動を戒しむ
79. 昭和23年6月25日 科学文化新聞 学士院独立を宣言 学術会議側は法案成立を楽観
80. 昭和23年6月25日 科学文化新聞 社説 学術選挙に万全を期せ
81. 昭和23年7月9日 毎日新聞 学術会議員選挙 十二月二十日行ふ
82. 昭和23年7月9日 朝日新聞 全科学者を登録 日本学術会員の選挙は年末
83. 昭和23年7月20日 毎日新聞 大学院を強化 科学者養成に研究費
84. 昭和23年9月10日 時事新報 人と人(37) 兼重と山田

## リールNo. 4

### 『学術体制刷新委員会事務局綴 昭和22年』

1. 「アダムス・ケリー両博士挨拶及び談話」の印刷物送附について、学術体制刷新委員会事務局、委員宛、用箋、手書き、1枚。  
〔「昭和二二年九月拾日」発送と捺印、3の草稿〕
2. 〔表題なし〕、委員のリスト、学術研究会議用箋、1枚。



3. 学刷発第八号, 昭和二十二年九月九日, 「アダムス・ケリー両博士挨拶及び談話」の印刷物送付について, 学術体制刷新委員会事務局, タイプ, 1枚.
4. 〔表題なし〕, 委員のリスト, 学術研究会議用箋, 1枚. 〔2の続きか〕
5. Speech to be given by Dr. Harry C. Kelly, Aug. 25, 1947, タイプ, 2頁.
6. Address by Dr. Rojor<sup>マ</sup> Adams For the Scientific Advisory Group, タイプ, 4頁.
7. Address by Dr. Rojor<sup>マ</sup> Adams For the Scientific Advisory Group, タイプ, 10頁.
8. 学術体制刷新委員会委員名簿, タイプ, 2枚. 〔加筆修正あり〕
9. 〔表題なし〕, 手書きメモ, 1枚. 〔「機関長宛 添付書類……」〕
10. 学刷発第六号, 案, 二二年九月三日, 学術体制刷新委員会委員長名, 機関長宛, 学術研究会議用箋, 手書き, 2頁.  
〔学術体制刷新委員会委員所属長への挨拶, 13の原案〕
11. 学刷発第六号, 学術研究会議便箋, 手書き, 1枚.  
〔東京帝大総長ほか, 10の発送先リストか〕
12. 第二号様式, 孔版, 1枚.
13. 学刷発第六号, 二二年九月三日, 学術体制刷新委員会委員長兼重寛九郎, タイプ孔版, 1枚.
14. 学術体制刷新委員会の成立について, 日付なし, 世話人会, 機関長宛, 学術研究会議用箋, 手書き, 2枚.
15. 学刷発第九号, 案, 昭和二二年九月八日起案, 学術体制刷新委員会, 麓保孝 沖本伊三次宛, 学術研究会議用箋, 手書き, 1枚.
16. 委員長選挙の結果, 原稿用紙の一部, 手書き, 1枚. 〔「④」と記入あり, 17~20と一体の資料か〕
17. 〔表題なし〕, 手書きメモ, 1枚. 〔「③」と記入あり〕
18. 〔表題なし〕, 手書きメモ, 1枚. 〔「①」と記入あり〕
19. 委員長候補者詮考委員, 手書きメモ, 1枚. 〔「0」と記入あり〕
20. 委員長候補者三名の選挙, 手書きメモ, 1枚. 〔「②」と記入あり〕
21. 学術体制刷新委員会世話人会御中, 群馬県吾妻郡北軽井沢 田辺元, 昭和22年7月30日, 学術研究体制世話人会宛封筒.
22. 書簡, 田辺元, 学術体制刷新委員会御中学術研究体制世話人会御中, 1枚.
23. 学術体制世話人会御中, 東京帝国大学南原繁, 8月16日, 封筒. 〔委員辞退願い〕
24. 書簡, 南原繁, 学術体制世話人会御中, 1枚. 〔委員辞退願い〕
25. 学術研究体制世話人会御中, 安倍能成, 官製はがき, 1枚 〔辞退願い〕

26. 案，学術体制刷新委員会委員辞任について，学術体制刷新委員会委員長名，辞任委員宛，昭和22年8月27日起案，学術研究会議用箋，手書き，1枚。
27. 案，学術体制刷新委員会委員当選について，学術体制刷新委員会委員長名，委員名宛，昭和22年8月27日起案，学術研究会議用箋，手書き，1枚。
28. 学術体制刷新委員会事務局職務構成，用箋，手書き，1枚。
29. 学術体制刷新委員会発会式に於ける刷新委員代表湯川秀樹挨拶，タイプ孔版，7頁。
30. 学術体制刷新委員会発会式に於ける片山総理大臣挨拶，タイプ孔版，5頁。
31. 米国学術顧問団代表アダムス博士挨拶，タイプ孔版，6頁。
32. Address by Dr. Roger Adams For the Scientific Advisory Group，タイプ孔版，2頁。
33. 学術研究体制世話人会経過報告書，孔版，7頁。
34. 学術研究体制世話人会より学術体制刷新委員会への引継事項，孔版，2頁。
35. 学術研究会議支部担当区域表，タイプ孔版，1枚。
36. 学術体制刷新委員会最終選定人地域別調，孔版，25頁。
37. 学術体制刷新委員会議事規則草案，タイプ孔版，2頁。
38. 学術体制刷新委員会委員名簿，タイプ孔版，4頁。
39. 学術体制刷新委員会委員名簿，タイプ孔版，4頁。  
〔「○御出席者 八月二十六日」と記入あり，出欠名簿か〕
40. 二五日午前午後刷新委員出席者七四名，昭和22年8月25日，学術研究会議用箋，5枚。〔出欠名簿〕
41. 〔表題なし〕，手書きメモ，1枚。
42. 学術体制刷新委員会事務局職務構成，タイプ孔版，1頁。
43. 学術体制刷新委員会事務局人事構成，タイプ孔版，1頁。
44. 学術体制刷新委員会事務局人事構成，学術研究会議用箋，手書き，1枚。  
〔43. の草稿〕
45. 〔表題なし〕，学術研究会議メモ用紙，手書き，1枚。〔印刷部数のメモ〕
46. 正誤表，学術研究会議便箋，手書き，1枚。
47. 学術体制刷新委員会最終選定人地域別調，孔版，25頁。
48. 地方委員（一七名），手書き，2頁。
49. 学術体制刷新委員会委員名簿，学術研究会議用箋，手書き，6枚。
50. 左案施行伺，学術研究体制世話人会，刷新委員宛，昭和22年8月21日起案，学術研究会議用箋，手書き，1枚。
51. 学術体制刷新委員会委員名簿，タイプ孔版，4頁。
52. 学術体制刷新委員会第一回総会等日程，手書き，1枚。

53. 八月二十五日予定，孔版，1枚。
54. 懇談会開催に付左案施行伺，米国学術顧問団日本側委員会委員長 学術研究会議会長 亀山直人，学術体制刷新委員会委員 氏名宛，米国学術顧問団との懇談会開催について，昭和22年8月16日起案，学術研究会議用箋，手書き，2枚。
55. 学術体制刷新委員会委員名簿，タイプ孔版，2頁。
56. 米国学術顧問団との懇談会開催について，米国学術顧問団日本側委員会委員長 学術研究会議会長 亀山直人，学術体制刷新委員会委員 氏名宛，東京帝国大学用箋，手書き，3枚。〔54の草稿〕
57. 刷新委員，学術研究会議用箋，昭和二二年八月二六日，手書き，3枚。〔出欠〕
58. 学術体制刷新委員会（仮称）第一回総会開催の為左案の施行をお伺いする，学術研究体制世話人会，昭和22年8月11日起案，学術研究会議用箋，手書き，8頁。
59. 学術体制刷新委員会委員名簿，タイプ孔版，1枚。
60. 案ノ二，学術研究会議便箋，手書き，1枚。
61. 学術体制刷新委員会第一回総会〔及び米国学術顧問団との協議会〕開催について，学術研究体制世話人会，刷新委員氏名 宛，学術研究会議原稿用紙，手書き，2枚。
62. 学術体制刷新委員会（仮称）委員当選通知の件，学術研究体制世話人会，孔版，1枚。
63. 左案施行伺，学術研究体制世話人会，世話人氏名宛，昭和22年9月18日起案，学術研究会議用箋，手書き，2枚。
64. 八月二十五日予定，孔版，1枚。
65. 学術研究世話人会委員名簿，孔版，4頁。
66. 八月二十五日予定，孔版，1枚。〔64に「使送」と捺印，メモ書き〕
67. 学術体制刷新委員会地方連絡委員会規則，孔版，2頁。
68. 学術体制刷新委員会会則，孔版，2頁。
69. 学術体制刷新委員会関係会議開催表（三月分），タイプ，1枚。
70. 学術体制刷新委員会議事規則，孔版，1頁。
71. 北海道地方連絡委員会委員名簿，孔版，2頁。
72. 九州地方連絡連絡委員会委員名簿，孔版，2頁。
73. 東海地方連絡委員会委員名簿，孔版，2頁。
74. 九州地方連絡連絡委員会委員名簿，孔版，2頁。
75. 昭和二十二年九月二十五日 学術体制刷新委員会委員長 兼重寛九郎，孔版，2頁。〔委員選出者宛〕
76. 関西第一地方連絡連絡委員会委員名簿，孔版，4頁。
77. 関西第二地方連絡連絡委員会委員名簿，孔版，2頁。
78. 東海地方連絡委員会委員名簿，孔版，2頁。

79. 〔表題なし〕，メモ書き，1枚.
80. 〔表題なし〕，学術研究会議原稿用紙，メモ書き，1枚.
81. 関東地方連絡委員会委員覚書，学術研究会議用箋，手書き，2枚.
82. 報告（兼重委員長），学術研究会議原稿用紙，手書き，3枚.
83. 連合軍司令部経済科学局科学技術部次長H. C. Kelly博士殿，決議，学術体制刷新委員会 委員長兼重寛九郎，昭和22年9月18日，タイプ，1枚.
84. 関東地方連絡委員会について，タイプ，1枚. 〔記入多数〕
85. 学研発第二八号，案，□年九月二十五日，学術体制刷新委員会委員長 兼重寛九郎，総合大学総長宛，昭和22年9月26日起案，学術研究会議用箋，手書き，1枚.
86. 学刷第二〇号，昭和二二年九月二〇日，学術体制刷新委員会委員長 名，舞出長五郎宛，学術体制刷新委員会委員当選について，学術研究会議用箋，手書き，1枚.
87. 学刷第一九号，昭和二二年九月二十一日，案，委員長 名，大河内一男宛（東大教授），学術体制刷新委員会委員辞任について，学術研究会議用箋，手書き，1枚.
88. 大河内一男から兼重寛九郎宛，委員辞退の書簡，東京経済学研究所便箋2枚.
89. 辞任願，大河内一男，学術体制刷新委員長 兼重寛九郎殿
90. 学術体制刷新委員長 兼重寛九郎先生，東京帝国大学経済学部封筒1枚.
91. 学刷発第二一号，案，学術体制刷新委員会委員長名 成瀬政男殿（東北帝国大学工学部），昭和22年9月25日起案，宛学術研究会議用箋，手書き，1枚.
92. 学刷発第二二号，案，学術体制刷新委員会委員長 兼重寛九郎，鈴木醇殿（北海道帝国大学理学部），昭和22年9月25日起案，宛学術研究会議用箋，手書き，1枚.
93. 案，昭和22年9月22日，学術体制刷新委員会 委員長 兼重寛九郎，学術研究会議便箋，手書き，1枚. 〔「至急」と捺印〕
94. 〔表題なし〕，学術研究会議便箋，手書き，2枚. 〔委員会事務局からの書簡〕
95. 〔表題なし〕，学術研究会議用箋，手書き，1枚. 〔学術体制刷新委員会会則，議事規則，地方連絡委員会規則印刷に関して〕
96. 学術体制刷新委員会運営委員会委員名簿，手書き，1枚.
97. 学刷発第三十三号，学術体制刷新委員会委員長 兼重寛九郎，委員殿，昭和二十二年十月□日，タイプ孔版，1枚.
98. 昭和二十二年九月二十日，学術体制刷新委員会委員長 兼重寛九郎，連合軍司令部経済科学局科学技術部次長ケリー博士宛，学術体制刷新委員会総会決議の報告，タイプ孔版，1枚.
99. 学刷発第三十三号，学術体制刷新委員会委員長 兼重寛九郎，委員殿，昭和二十二年十月□日，学術研究会議用箋，手書き，2枚. 〔97の草稿〕
100. 学刷発第四二号，案，学術体制刷新委員会委員長 兼重寛九郎，文部大臣官房会計

- 課長近藤直人宛，第三回日本美術展覧会入場券下附について，学術研究会議野紙，手書き，1枚。〔101の草稿〕
101. 学刷発第四二号，第三回日本美術展覧会入場券下附について，学術体制刷新委員会委員長 兼重寛九郎，文部大臣官房会計課長近藤直人殿宛，学術研究会議用箋，タイプ，1枚。
  102. 案，浦本政三郎宛，昭和22年11月25日起案，学術研究会議用箋，手書き，2枚。
  103. 委員辞退願，浦本政三郎，学術体制刷新委員会委員長 兼重寛九郎宛，昭和22年11月18日，タイプ，1枚。
  104. 判定書内容の摘要，タイプ孔版，1枚。
  105. 浦本政三郎から学術体制刷新委員会長 兼重寛九郎宛，封筒。
  106. 昭和22年12月1日，学術体制刷新委員会委員長 兼重寛九郎，浦本政三郎宛書簡，タイプ，1枚。
  107. 学刷<sup>マ</sup>第六〇号，昭和二十二年十二月五日，委員長名，学術研究会議用箋，手書き，1枚。〔108. の草稿，加筆訂正あり〕
  108. 学刷発第六〇号，昭和二十二年十二月五日，委員長名，□殿，タイプ，1枚。
  109. 学刷発第六二号，昭和二十二年十二月二十日起案，案，第五回総会に於ける配布資料送付について，委員長名，学術研究会議用箋，手書き，2枚。
  110. 学刷発 第六二号の一，昭和二十二年十二月二十四日，学術体制刷新委員会 委員長 兼重寛九郎案，第五回総会に於ける配布資料送付について，タイプ，1枚。
  111. 学刷発 第六二号の二，昭和二十二年十二月二十四日，学術体制刷新委員会 委員長 兼重寛九郎案，第五回総会に於ける配布資料送付について，タイプ，1枚。
  112. 第五回総会欠席者，学術研究会議用箋，手書き，1枚。
  113. 昭和二十三年一月十日，学術体制刷新委員会委員長 兼重寛九郎，新聞社文化部文芸部御中，学術体制刷新委員会第六回総会開催について，タイプ孔版，1枚。
  114. 昭和二十二年十二月二十二日，会議開催について，手書き，1枚。
  115. 学刷発六三号の一，昭和二十二年十二月二十日，〔学術体制刷新委員会第六回総会の案内〕，タイプ，1枚。
  116. 旅費給与伺，タイプ及び手書き，1枚。
  117. 旅費給与伺，タイプ及び手書き，1枚。
  118. 名簿，タイプ及び手書き，1枚。
  119. 学術体制刷新委員会委員名簿，孔版，2頁。
  120. 学刷第六四号，昭和二十三年一月十日，学術体制刷新委員会委員長 兼重寛九郎，手書き，2頁。
  121. 審議機関に関する議決事項，手書き，4頁。

122. 第六回総会日程, 手書き, 1頁.
123. 案の二, 委員長名, 新聞社文化部文芸部御中, 学術体制刷新委員会第六回総会開催について, 学術研究会議用箋, 手書き, 2枚. [126の草稿]
124. 学刷第六五号, 学術体制刷新委員会委員長 兼重寛九郎, 委員殿, 学術体制刷新委員会第六回総会開催について, 学術研究会議用箋, 手書き, 1枚.
125. 学術体制刷新委員会第五回総会事務分担, タイプ孔版, 1枚.
126. 昭和二十三年一月十日, 委員長名, 新聞社文化部文芸部御中, 学術体制刷新委員会第六回総会開催について, タイプ孔版, 1枚.
127. 学刷運発第五号, 学術体制刷新委員会委員長 兼重寛九郎, タイプ, 1枚.
128. 東大一工 武藤清のはがき, 1枚.
129. 学刷運発第八号, 学術体制刷新委員会委員長 兼重寛九郎, 委員殿, 手書き, 1枚.
130. 学術体制刷新委員会第五回総会日程, 学術研究会議用箋, 手書き, 1枚.
131. 学刷発第六八号, 案一, 委員長, 関東地方連絡委員会(農学部門)委員長名, 学術研究会議用箋, 手書き, 2枚.
132. [表題なし], メモ書き, 1枚.
133. 昭和二十三年一月十九日, 曾良中清作よりの書簡, 王子製紙株式会社江別工場用箋, 手書き, 2枚.
134. 学刷発第六八号の一, 昭和二十三年一月二十七日, 学術体制刷新委員会 委員長 兼重寛九郎, 関東地方連絡委員会(農学部門)委員長佐々木喬, 学術研究会議用箋, タイプ, 1枚.
135. 学刷発第六八号の二, 昭和二十三年一月二十七日, 学術体制刷新委員会 委員長 兼重寛九郎, 北海道地方連絡委員会委員長鈴木醇, 学術研究会議用箋, タイプ, 1枚.
136. 学刷発第六八号の三, 昭和二十三年一月二十七日, 学術体制刷新委員会 委員長 兼重寛九郎, 曾良中清作, 学術研究会議用箋, タイプ, 1枚.
136. 地方機関に関する九州地方連絡委員会意見, タイプ, 1枚.
137. [表題なし], メモ書き, 1枚.
138. 投票用紙入れ, 封筒.
139. 我妻栄史, 投票用紙.
140. 学術体制刷新委員会第六回総会開催日程(一月三十日三十一日正十時 至十六時), タイプ孔版, 1枚.
141. 学術体制刷新委員会第五回総会記録(概要), 孔版, 25頁.
142. 科学技術機構に関する議案, 孔版, 2頁.
143. 科学技術行政機関に関する案, 孔版, 5頁.

144. 審議機関に関する主要問題についての討論議決, 孔版, 4頁.
145. 学術新体制科学渉外連絡会有志案(後篇), 孔版, 5頁.
146. 選挙に関する特別委員長報告要旨 於一月三十一日総会, 孔版, 2頁.
147. 選挙の方法に関する修正意見, 孔版, 1枚.
148. [表題なし], 学術研究会議便箋, 手書き, 1枚. [新聞社名リスト]
149. 第六回総会出欠表, タイプ孔版および手書き, 2枚.
150. 電報, 1通.
151. 学刷発第七三号, 案一, 委員長, 関東地方連絡委員会委員長(農学部門)委員長佐々木喬宛, 学術研究会議用箋, 手書き, 2枚.
152. 関東地方連絡委員(農学部門), 学術研究会議メモ用紙, メモ, 1枚.
153. 可知貫一から学術体制刷新委員会関東地方連絡委員会副委員長佐々木喬宛書簡, 1枚.
154. 帝国学士院内学術体制刷新委員会農学部門御中, 可知貫一発信, 1月27日, 封筒.
155. 学刷発第七三号の一, 昭和二十三年一月三十一日, 学術体制刷新委員会委員長 兼重寛九郎, 関東地方連絡委員会委員長佐々木喬宛, 学術研究会議用箋, タイプ, 1枚.
156. 学刷発第七三号の二, 昭和二十三年一月三十一日, 学術体制刷新委員会委員長 兼重寛九郎, 東海地方連絡委員会委員長戸澤鐵彦宛, 学術体制刷新委員会用箋, タイプ, 1枚.
157. 学刷発第七三号の三, 昭和二十三年一月三十一日, 学術体制刷新委員会委員長 兼重寛九郎, 可知貫一宛, 学術体制刷新委員会用箋, タイプ, 1枚.
158. 学刷発第七二号, 昭和二十三年一月三十一日起案, 案, 委員長名, 阪大総長宛(今井荒男), 学術研究会議用箋, 手書き, 1枚.
159. 学刷発第七二号, 昭和二十三年一月三十一日, 学術体制刷新委員会委員長 兼重寛九郎, 大阪大学総長 今井荒男宛, 学術体制刷新委員会用箋, タイプ, 1枚.
160. 学術体制刷新委員会第六回総会日程(一月三十日三十一日正十時 至十六時), タイプ孔版, 1枚.
161. 審議機関に関する議決事項, タイプ孔版, 5頁.
162. 科学技術行政機構に関する議決事項, タイプ孔版, 2頁.
163. 選挙に関する議決事項, タイプ孔版, 3頁.
164. 学刷発第八二号, 昭和二十三年二月七日起案, 案, 学術体制刷新委員会 委員長 兼重寛九郎, 委員宛, 学術体制刷新委員会第七回総会開催について, 学術研究会議用箋, 手書き, 2枚.
165. 旅費給与伺, タイプ及び手書き, 1枚.

166. 弁当給与伺, タイプ及び手書き, 1枚.
167. 学術体制刷新委員会委員名簿, 孔版, 3頁.
168. 案の二, 委員長, 新聞社文化部文芸部御中, 学術体制刷新委員会第七回総会開催について, 学術研究会議用箋, 手書き, 2枚
169. [表題なし], メモ, 1枚. [新聞社のリスト]
170. [表題なし], メモ, 1枚.
171. 学刷発第八四号, 昭和二十三年二月二日起案, 案, 委員長名, 委員宛, 第六回総会議決事項通知, 学術研究会議用箋, 手書き, 1枚.
172. 審議機関に関する〔主要問題についての討論議決〕議決事項, 孔版, 3頁.  
〔加筆修正多数〕
173. 科学技術行政機関に関する議〔案〕決事項, 孔版, 2頁. [加筆修正多数]
174. 選挙に関する議決事項, 学術研究会議用箋, 手書き, 4頁.
175. 審議機関に関する議決事項, タイプ孔版, 5頁.
176. 科学技術行政機構に関する議決事項, タイプ孔版, 2頁.
177. 選挙に関する議決事項, タイプ孔版, 3頁.
178. 学刷発第九〇号, 昭和二十三年三月五日, 学術体制刷新委員会 委員長 兼重寛九郎, 委員宛, 学術体制刷新委員会第八回総会開催について, タイプ孔版, 1枚.  
〔2部あり〕
179. 学刷発第九〇号, 昭和二十三年三月五日起案, 案一, 委員長名, 委員宛, 学術体制刷新委員会第八回総会開催について, 学術研究会議用箋, 手書き, 3枚.
180. 弁当給与伺, タイプ及び手書き, 1枚.
181. 旅費給与伺, タイプ及び手書き, 1枚.
182. 学術体制刷新委員会委員名簿, 孔版, 3頁.
183. A, 審議機関に関する特別委員会(一七名) B, 行政機構に関する特別委員会(一七名) C, 選挙(方法並びに母体)に関する特別委員会(二五名) D, 提案処理特別委員会(一七名) E, 渉外連絡特別委員会(四名), タイプ孔版, 3頁.
184. [表題なし], 文部省原稿用紙, メモ書き, 1枚.
185. 学刷発第九〇号, 昭和二十三年三月五日, 学術体制刷新委員会 委員長 兼重寛九郎, 委員宛, 学術体制刷新委員会第八回総会開催について, タイプ孔版, 1枚.  
〔学刷発第八二号に加筆修正したもの〕
186. 学刷発第九一号の一, 昭和二十三年三月起案, 伺, 学術研究会議用箋, 手書き, 1枚.
187. 案, 昭和二十三年三月〇日, 学術体制刷新委員会委員長 兼重寛九郎, 地方連絡委員会委員各位, 孔版, 1枚.



188. 学術体制刷新委員会委員名簿，孔版，2頁。
189. 学術体制刷新委員会最終選定人地域別調，孔版，24頁。
190. 伺，昭和二十三年三月五日起案，学術研究会議用箋，手書き，1枚。
191. 案，昭和二十三年三月五日，学術体制刷新委員会委員長 兼重寛九郎，各位殿，孔版，2頁。
192. 新学術体制について，学術体制刷新委員会（二三・二・二八），孔版，20頁。
193. 学術体制刷新委員会役員名簿，タイプ孔版，2枚。
194. 〔名簿〕，学術研究会議用箋，手書き，6枚。
195. 弁当給与伺，タイプ孔版及び手書き，1枚。
197. 旅費給与伺，タイプ孔版及び手書き，1枚。
198. 昭和二十三年二月二十三日，学術体制刷新委員会 委員長 兼重寛九郎，学術研究会議議長殿，学術体制刷新委員会残務事務及び学術体制新機関設立に関する準備事務について依頼，学術体制刷新委員会用箋，タイプ，1枚。
199. 学術体制刷新委員会第八回総会事務分担表，タイプ，1枚。
200. 学術体制刷新委員会第七回総会日程，タイプ，1枚。
201. 案，昭和二十三年三月〇日，学術体制刷新委員会委員長 兼重寛九郎，地方連絡委員会委員各位，孔版，1枚。
202. 新学術体制について，学術体制刷新委員会（二三・二・二八），孔版，20頁。
203. 学術体制刷新委員会 第七回総会議決事項，孔版，9頁。
204. 選挙に関する議決事項，孔版，6頁。
205. 行政機構に関する議決事項，孔版，5頁。
206. 学術体制刷新委員会第六回総会記録（概要），孔版，43頁。
207. 日本学術会議（仮称），孔版，12頁。
208. 科学技術協議会並に科学振興を担当する主務省に関する案及び議案，孔版，4頁。
209. 選挙に関する審議事項，孔版，2頁。
210. 学術体制刷新委員会最終選定人地域別調，孔版，24頁。
211. 電報，1通。
212. 傍聴者控，学術研究会議用箋，手書き，1枚。
213. 第七回刷新委員会総会出欠一覧表，学術研究会議用箋，手書き，1枚。
214. 学術体制刷新委員会関係会議開催表，タイプ孔版，1枚。
215. 学術体制刷新委員会第八回総会事務分担表，タイプ，1枚。
216. 学術体制刷新委員会第八回総会日程，タイプ孔版，1枚。
217. 学術体制刷新委員会役員名簿，タイプ孔版，2枚。
218. 学術体制刷新委員会役員名簿，孔版，2頁。

219. 日本学術会議法（案），孔版，6頁。
220. 科学技術行政機構に関する審議事項，孔版，6頁。
221. 選挙管理委員会規則，孔版，2頁。
222. 日本学術会議会則，孔版，5頁。
223. 学術体制刷新委員会公聴会記録（概要），孔版，14頁。
224. 科学振興に対する「委員会」と「省」とを比較せる得失，孔版，1枚。
225. 学術体制刷新委員会第七回総会記録（概要），孔版，44頁。
226. 委員長一般報告資料，昭和二十三年三月二十三日，連合軍総司令部経済科学局科学技術課，孔版，2頁。
227. 学術体制刷新委員会第八回総会日程，タイプ孔版，1枚。
228. 日本学術会議会員選挙規則，孔版，6頁。
229. 科学技術行政協議会を設置する必要，孔版，3頁。
230. 〔表題なし〕，メモ，手書き，1枚。
231. 中央選挙管理委員会，学術研究会議原稿用紙，手書き，3枚。
232. 昭和二十三年三月十七日，学術体制刷新委員会北海道地方連絡委員会 委員長 鈴木醇，学術体制刷新委員会 委員長殿，北海道地方連絡委員会選挙委員報告の件，北海道帝国大学用紙，タイプ，1枚。
233. 北海道地方選挙管理委員会委員，北海道帝国大学用箋，手書き，1枚。
234. 封筒，学術体制刷新委員会北海道地方連絡委員会から学術研究会議内 学術体制刷新委員会委員長殿，手書き。
235. 東北地方選挙委員会委員，東北帝国大学用箋，タイプ，1枚。
236. 九州地方選挙管理委員会委員，九州帝国大学工学部造船学教室用箋，手書き，1枚。
237. 〔表題なし〕，メモ，手書き，1枚。
238. 声明書，学術体制刷新委員会，昭和二十三年三月二十七日，原稿用紙，手書き，3枚。
239. 声明書，学術体制刷新委員会，昭和二十三年三月二十七日，孔版，1枚。〔2部〕
240. 学刷発第八七号，昭和二十三年二月二十六日起案，案一，委員長，向坂逸郎宛，学術研究会議用箋，手書き，2枚。
241. 辞任願，学術体制刷新委員会委員 九州大学教授 向坂逸郎，昭和二十三年一月二十日，手書き，1枚。
242. 会議報告，刷新委員と学士院関係者との懇談会，昭和二十三年三月十日，手書き，1枚。
243. 学刷発第九七号，昭和二十三年二月二十五日起案，案，刷新委員会委員長，学士会員宛（別記），学術体制刷新委員と学士院関係者との懇談会，学術研究会議用箋，

- 手書き, 2枚.
244. 本会合出席者に対し弁当給与について, タイプ孔版, 1枚.
255. 昭和二十三年二月二十五日, 学術体制刷新委員会 委員長 兼重寛九郎, タイプ孔版, 1枚. [学院関係者との懇談会通知]
256. 昭和二十三年二月二十五日, 学術体制刷新委員会 委員長 兼重寛九郎, 2枚.  
[学院関係者との懇談会通知]
257. 名簿, 学術研究会議用箋, 手書き, 1枚.
258. 会議報告, 各地方連絡委員長会議, 昭和二十三年三月二十日, 手書き, 1枚.
259. 会議開催について, 昭和二十三年三月三十一日, タイプ孔版, 手書き, 2枚.
260. 本会合出席者に対し弁当給与について, タイプ孔版, 1枚.
261. 本会合出席者中地方からの上京者に対し旅費支給について, タイプ孔版, 2枚.
262. 電文案, 昭和二十三年三月二十日起案, 北海道・東北・関東・東海・関西第一・関西第二・九州 各地方連絡委員長宛, 学術研究会議用箋, 手書き, 1枚.
263. 選挙特別委員会委員大山松二郎から刷新委員会工学部門委員各位宛手紙, 手書き, 1枚.
264. 電文案, 昭和二十三年三月十四日起案, 北海道・東北・関東・東海・関西第一・関西第二・九州 各地方連絡委員長宛, 学術研究会議用箋, 手書き, 1枚.
265. 電文, 学術体制刷新委員会 委員長 兼重寛九郎, 仙台市東北大学内成瀬政男・東北地方連絡委員長木村亀二宛, 学術研究会議用箋, 手書き, 1枚.
266. 会議報告, タイプ孔版, 1枚. [書式]
267. 学刷発第九二号, 昭和二十三年三月十九日起案, 案, 刷新委員会委員長, 新聞社(別記), 学術研究会議用箋, 手書き, 1枚.
268. 学刷発第九二号, 昭和二十三年三月十九日, 学術体制刷新委員会委員長, タイプ孔版, 1枚. [報道関係者との懇談会案内] [3部]
269. [表題なし], メモ書き, 手書き, 1枚.
270. 電文案, 昭和二十三年三月二十日起案, 学術研究会議用箋, 手書き, 一部.
271. 昭和二十三年二月二十二日, 学術体制刷新委員会 委員長 兼重寛九郎, 特別委員会委員長宛, 学術研究会議用箋, タイプ, 1枚.  
[報道関係者との懇談会通知] 2部
272. 報道関係者と学術体制刷新委員会との勉強会, 昭和二十三年三月二十四日, 学術研究会議用箋, 手書き, 3枚.
273. 声明書, 学術体制刷新委員会, 昭和二十三年三月二十七日, 孔版, 1枚.
274. Draft Only--- Subject to Confirmation. The interested sections of GHQ agree that there is no objection. タイプ, 1枚. [8部]

275. 〔表題なし〕, メモ, 手書き, 2枚.
276. 公聴会出席者, 学術研究会議用箋, 手書き, 8枚.
277. 東大理学部職員組合, 手書き, 1枚.
278. 声明書, 学術体制刷新委員会, 昭和二十三年三月二十七日, 孔版, 1枚.
279. 学刷発第六四号, 昭和二十三年一月十日, 学術体制刷新委員会 委員長 兼重寛九郎, 委員宛, タイプ孔版, 1枚.
280. 審議機関に関する議決事項, タイプ孔版, 2枚.
281. 第六回総会日程, タイプ孔版, 1枚.
282. 〔表題なし〕, 学術体制刷新委員会 委員長 兼重寛九郎, 昭和二十二年十二月十八日, 地方連絡委員会委員長宛, タイプ孔版, 2枚.
283. 〔表題なし〕, 委員長名, 昭和二十二年十二月十八日, 地方連絡委員会委員長宛, 学術研究会議用箋, 手書き, 1枚.
284. 手紙, 九州地方連絡委員会渡邊恵弘から兼重寛九郎宛, 九州帝国大学工学部造船学教室用箋, 手紙, 手書き, 5枚.
285. 手紙, 関西第二地方連絡委員会委員長 熊谷三郎から学術体制刷新委員会 委員長 兼重寛九郎宛, 大阪帝国大学工学部通信工学教室用箋, 手書き, 2枚.
286. 封筒, 関西第二地方連絡委員会委員長 熊谷三郎から学術体制刷新委員会 委員長 兼重寛九郎宛.
287. 昭和二十三年一月二十七日, 学術体制刷新委員会 委員長 兼重寛九郎, 広島文理科大学関係地方連絡委員会委員宛, 学術研究会議用紙, タイプ, 2枚.
288. 昭和二十三年一月〇日, 学術体制刷新委員会 委員長 兼重寛九郎, 広島文理科大学関係地方連絡委員会委員宛, 手書き, 3頁. 〔288. の草稿〕
289. 学刷発第六三号, 案, 〇年〇月〇日, 委員長名, 大阪大学医学部木下良順宛, 手書き, 学術研究会議用箋, 手書き, 1枚.
290. 学刷発第六三号, 昭和二十三年一月十日, 学術体制刷新委員会 委員長 兼重寛九郎, 大阪大学医学部木下良順宛, タイプ, 1枚.
291. 第七回総会出席委員名簿, 手書き, 1枚.
292. 学術体制刷新委員会関西第二地方連絡委員会第七回総会議事録, 昭和二十三年一月七日, 孔版, 1枚.
293. 封筒, 大阪大学事務局庶務課から学術体制刷新委員会 委員長 兼重寛九郎宛.
294. 阪大庶第五三号, 学術体制刷新委員会 関西第二地方連絡委員会委員長 熊谷三郎から学術体制刷新委員会委員長宛, 第八回総会議事録送付のこと, 大阪帝国大学用箋, 手書き, 1枚.
295. 学術体制刷新委員会関西第二地方連絡委員会第八回総会議事録, 昭和二十三年三月

- 六日，孔版，1枚。
296. 第八回総会出席委員名簿，孔版，1枚。
  297. 中脩三から学術体制刷新委員会あて書簡，手書き，5頁。
  298. 九州帝国大学医学部附属医院精神科教室封筒，中脩三より学術体制刷新委員会宛。
  299. 電報，3通。
  300. 〔表題なし〕，メモ，手書き，2枚。
  301. 第八回刷新委員会総会出席一覧表，学術研究会議用箋，手書き，1枚。
  302. 学術体制刷新委員会第八回総会事務分担表，タイプ，1枚。
  303. 昭和二十三年三月〇日，学術体制刷新委員会委員長 兼重寛九郎，地方連絡委員会委員宛，孔版，1枚。
  304. 昭和二十三年三月〇日，学術体制刷新委員会委員長 兼重寛九郎，孔版，2頁。
  305. 新学術体制について（二三・二・二八），学術体制刷新委員会，孔版，20頁，2部。
  306. 昭和二十三年三月〇日，学術体制刷新委員会委員長 兼重寛九郎，地方連絡委員会委員宛，孔版，1枚。
  307. 昭和二十三年三月五日，学術体制刷新委員会委員長 兼重寛九郎，各位殿，孔版，2頁。〔304，に日付入れたもの〕，2部あり。
  308. 提案第十号 学術新体制案 最高科学者会議（仮称），孔版，7頁。
  309. 案，学術体制刷新委員会事務局，名古屋大学事務局長宛，学術研究会議用箋，手書き，1枚。
  310. 古屋帝国大学理学部より学術体制刷新委員会宛封筒，手書き。〔メモあり〕
  311. 名古屋事務局長 須川義弘から学術体制刷新委員会事務局宛手紙，名古屋帝国大学理学部用箋，手書き，2枚。
  312. 件名，学術研究会議用箋，手書き，3枚。

## リールNo. 5

### 『学術体制刷新委員会第1回総会速記録(第2日)』

\* 第1日の速記録はない。

1. 学術体制刷新委員会懇談会，昭和二十二年八月二十六日，於東大図書館，原稿用紙，手書き，51枚。〔米国学術顧問団との懇談会記録〕

2. 学術体制刷新委員会総会，昭和二十二年八月二十六日(火曜日)，原稿用紙，手書き，119枚.

### 『学術体制刷新委員会第2回総会速記録(第1日)』

1. 学術体制刷新委員会第二回総会速記録，昭和二十二年九月十七日，於学士院，原稿用紙，手書き，143枚.
2. 学術体制刷新委員会第二回総会速記録(午後の部)，昭和二十二年九月十七日，於帝国学士院，手書き，原稿用紙，193枚.

### リールNo. 6

### 『学術体制刷新委員会第2回総会速記録(提案処理・小委員会議)』

1. 学術体制刷新委員会第二回総会 提案処理小委員会議速記録，昭和二十二年九月十八日，上野学士院会館，原稿用紙，手書き，129枚.
2. 地方委員会準備小委員会議事速記録，昭和二十二年九月十八日，学士院院長応接室，原稿用紙，手書き，187枚.

### 『学術体制刷新委員会第2回総会速記録(第2日)』

1. 学術体制刷新委員会第二回総会速記録(第二号) (前半)，昭和二十二年九月十八日，原稿用紙，手書き，175枚.
2. 学術体制刷新委員会第二回総会速記録(第二号) (後半)，昭和二十二年九月十八日，原稿用紙，手書き，193枚.

### リールNo. 7

### 『学術体制刷新委員会第3回総会速記録(第1日)』

1. 学術体制刷新委員会第三回総会(第一日) 議事速記録(上), 昭和二十二年十月二十四日(金), 於学士院講堂, 原稿用紙, 手書き, 278枚.

### 『学術体制刷新委員会第3回総会速記録(第2日)』

1. 学術体制刷新委員会第三回総会(第二日) 議事速記録(午前の部), 昭和二十二年十月二十五日(土), 原稿用紙, 手書き, 160枚.
2. 学術体制刷新委員会第三回総会議事速記録, 昭和二十二年十月二十五日(土曜日) 午後の部, 於学士会館, 原稿用紙, 手書き, 203枚.

## リールNo. 8

### 『学術体制刷新委員会第4回総会速記録(S. 22. 11. 21)』

1. 学術体制刷新委員会第四回総会議事速記録(第一日) 午前之部, 昭和二十二年十一月二十一日, 原稿用紙, 手書き, 347枚.  
\* 午後の部も含まれているが, 午後の分は特に表題はなし

### 『学術体制刷新委員会第4回総会速記録(S. 22. 11. 21)』

1. 学術体制刷新委員会第四回総会速記録, 昭和二十二年十一月二十二日(午前), 原稿用紙, 手書き, 140枚.
2. 学術体制刷新委員会第四回総会議事速記録, 昭和二十二年十一月二十二日(土曜日) 第二日, 原稿用紙, 手書き, 237枚.

## リールNo. 9

## 『学術体制刷新委員会第5回総会速記録 (S. 22. 12. 22)』

1. 学術体制刷新委員会第五回総会速記録 午前之部, 昭和二十二年十二月二十二日, 原稿用紙, 手書き, 132枚.
2. 学術体制刷新委員会第五回総会速記録 午後之部, 昭和二十二年十二月二十二日, 原稿用紙, 手書き, 237枚.

## 『学術体制刷新委員会第5回総会議事速記録 (S. 22. 12. 23)』

1. 学術体制刷新委員会第五回総会議事速記録, 帝国学士院, 昭和二十二年十二月二十三日(火), 原稿用紙, 手書き, 332枚.

### リールNo. 10

## 『学術体制刷新委員会第6回総会速記録 (S. 23. 1. 30)』

1. 学術体制刷新委員会第六回総会(其ノ一), 昭和二十三年一月三十日, 於 日本学士院講堂, 原稿用紙, 手書き, 246枚.
2. 学術体制刷新委員会第六回総会(其ノ二), 昭和二十三年一月三十日, 於 日本学士院講堂, 原稿用紙, 手書き, 213枚.

[原稿用紙は, 220から229まで欠落しているが, 内容は連続しており, 数字が誤っている可能性が高い]

### リールNo. 11

## 『学術体制刷新委員会第6回総会速記録 (S. 23. 1. 31)』

1. 学術体制刷新委員会第六回総会(其の一), 昭和二十三年一月三十一日, 於 日本学士院講堂, 原稿用紙, 手書き, 126枚.



2. 学術体制刷新委員会第六回総会(其の二), 昭和二十三年一月三十一日, 於 日本学士院講堂, 原稿用紙, 手書き, 282枚.

[174の数字がダブリ, 222, 255が欠落しているが, 内容は連続しており, 数字が誤っている可能性が高い]

## リールNo. 12

### 『学術体制刷新委員会第7回総会速記録 (S. 23. 2. 23) 』

1. 学術体制刷新委員会第七回総会議事録(午前の部), 昭和二十三年二月二十三日(第一日), 於 日本学士院, 原稿用紙, 手書き, 123枚.
2. 学術体制刷新委員会(第七回)議事速記録(午後の上), 昭和二十三年二月二十五<sup>マ</sup>日, 原稿用紙, 手書き, 197枚.
3. 学術体制刷新委員会第七回総会速記録(午後の部), 昭和二十三年二月二十三日, 原稿用紙, 手書き, 281枚.

## リールNo. 13

### 『学術体制刷新委員会第7回総会速記録 (S. 23. 2. 24) 』

1. 学術体制刷新委員会第七回総会議事録, 昭和二十三年二月二十四日(第二日), 於 日本学士院, 原稿用紙, 手書き, 263枚.

### 『学術体制刷新委員会第七回総会速記録 (S. 23. 2. 25) 』

1. 学術新体制刷新委員会総会議事速記録(午前の分), 昭和二十三年二月二十五日, 原稿用紙, 手書き, 130枚.

2. 学術体制刷新委員会(第七回)議事速記録(午後の下), 昭和二十三年二月二十五日, 原稿用紙, 手書き, 216枚.

[198から始まる番号が付されており, 午前の部分に続く131~197が落丁であることから, (午後の上)は欠落しているものと思われる]

## リールNo. 14

### 『学術体制刷新委員会公聴会速記録 (S. 23. 3. 15)』

1. 学術体制刷新委員会公聴会速記録(一), 昭和二十三年三月十五日, 原稿用紙, 手書き, 234枚.
2. 学術体制刷新委員会公聴会速記録(二), 昭和二十三年三月十五日, 原稿用紙, 手書き, 226枚.

## リールNo. 15

### 『学術体制刷新委員会第八回総会速記録 (S. 23. 3. 25)』

1. 学術体制刷新委員会第八回総会(午前の部), 昭和二十三年三月二十五日, 原稿用紙, 手書き, 175枚.
2. 学術体制刷新委員会第八回総会(午後部), 昭和二十三年三月二十五日, 原稿用紙, 手書き, 227枚.

## リールNo. 16

### 『学術体制刷新委員会第8回総会速記録S. 23. 3. 26』

1. 学術体制刷新委員会第八回総会(午前の部), 昭和二十三年三月二十六日, 原稿用紙, 手書き, 127枚.

2. 学術体制刷新委員会第八回総会(午後の部), 昭和二十三年三月二十六日, 原稿用紙, 手書き, 300枚.

### 『学術体制刷新委員会第8回総会速記録 (S. 23. 3. 27) 』

1. 学術体制刷新委員会第八回総会速記録(三日目), 昭和二十三年三月二十七日, 原稿用紙, 手書き, 206枚.

### 3 学術体制刷新委員会主要資料

- 一、学術体制刷新委員会発会式に於ける刷新委員代表湯川秀樹挨拶
- 二、学術体制刷新委員会に於ける片山内閣総理大臣挨拶
- 三、Address by Dr. Roger Adams For The Scientific Advisory Group
- 四、決議文（昭和二二年九月二十日、学術体制刷新委員会、合軍総司令部経済科学局科学技術部次長 ケリー博士宛）
- 五、早稲田大学総長島田孝一から学術体制刷新委員会委員長兼重寛九郎宛意見書（昭和二二年九月五日 早稲田大学総長 島田孝一）
- 六、総司令部了解事項訳文（昭和二三年三月二三日、経済科学局科学技術課）
- 七、Draft Only-----Subject to Confirmation
- 八、声明書（昭和二三年三月二七日、学術体制刷新委員会）
- 九、総理大臣への報告文（昭和二三年四月八日、学術体制刷新委員会委員長）

学術体制刷新委員会関係資料中、『日本科学技術史大系・通史〈5〉』、『日本学術会議25年史』に掲載されていないものの内、重要と思われる文書を選んで収録した。一〜三は、発足式での公式文書であり、四、八は、学術体制刷新委員会が答申以外に意見を表明したもの、五は初期の段階でもっとも厳しく学術体制刷新委員会そのものを批判したもの、六は最終段階での占領軍の見解表明、九は最終的な報告である。九には、法案等も添付されているが、紙幅の関係で割愛した。

#### 一、学術体制刷新委員会発会式に於ける刷新委員代表湯川秀樹挨拶

本日米国顧問団一行、連合軍総司令部の関係者各位、総理大臣初め関係諸大臣の御出席を得て学術体制刷新委員会の第一回総会が行われるに当り、委員を代表して一言御挨拶を致します機会を与えられましたことは、私の最も光栄とする所であります。

人間生活において科学の果たすべき役割は、十七世紀以来絶えず重要性を加えつつあります。特に最近における原子爆弾の出現は、科学研究と人間の他の諸活動との間の有効適切な相互的調節が、人類を破滅の危険から救い、より一層の繁栄を約束する鍵であるこ

とを、われわれに教えてくれたのであります。われわれ日本の科学者が新たにこの委員会を結成し、わが国の現状において可能な最良の学術体制が何であるかを審議するに当たつても、その第一の目標が世界の科学者全体の一部として、微力ではありますが、真理の発見と人間社会へのその全面的な活用とによつて、人類の福祉に少しでも多く貢献しようとするところにあるべきことは、もとよりいうまでもないのであります。

われわれはしかし、かかる高遠且つ一般的な理想を常に念頭に置くと同時に、現実におけるわが国の特殊事情に基づき、より切実な課題から目をそらしてはならないのであります。敗戦後の日本はもともと資源に乏しい上に戦災によつて破壊された狭隘な国土に、多数の人口を擁し、深刻なる経済的危局の打開にあらゆる努力をなしつつ、民主的国家を建設し、国民生活を安定し、進んで国際社会の一員として復活するという困難なる事業達成の途上にあるのであります。この目的の達成のために、学術の急速なる振興と、その成果の社会生活の諸部面への最大限度の活用が、如何に重要な意義を有するかは、私が改めて強調する必要のない所でありましょう。

願はばわが国は明治初年以來八十年の間に急速に欧米の近代的学術を輸入しつつ漸次単なる模倣時代から脱却して、独創の時代に入ろうとしていたのであります。この上昇の中途においてわが国は無謀なる戦に突入し、今日の惨憺たる状態に置かれることになったのであります。われわれ科学者がこの結果を未然に防止し得なかつたことに、わが国民に対しても、また世界人類に対しても、深くお詫びしなければならない所であります。われわれはこの点を十分反省すると共に、自らの上に課せられた道義的責任を自覚して、今後わが国を正しい進路に導き、国民生活の向上に貢献することに努めなければならないのであります。

この時に当り日本全国に亘る自然科学及び人文科学の各分野の多数の研究者が、学術研究体制世話人会によつて立案せられた選挙方法により総計百八名の刷新委員を決定し、新たな立場より学術体制を審議する運びとなりましたことは、日本再建途上における一つの重大な出来事であると思つるのであります。殊にこの委員会が科学者自体の発意と構想とによつて作られ、時日に余裕がなかつたために多少の不備と不統一な点はあつたにしても、民主的な方法によつて委員が選ばれたことは従来その例を見ない所であります。われわれは与えられた任務の重大なるに比して、甚だ微力であることを充分認めるものであります。自己の關係する専門分野乃至団体の利害及び従来に行きがかりを出来るだけ超越し、最も広い見地から最も公正なる態度を以て自由なる討論を重ね、わが国の現状に即して最善と考えられる学術体制の樹立に努力し、全科学者の要望と期待とに答えたいと思つので

あります。

しかしながら学術体制の刷新は極めて困難なる課題であります。

第一に科学の研究において最も大切な研究者の創意が充分発現されるためには、研究の自由が保証されていなければならないのは勿論であります。それと同時に学問の研究なるものは、研究当事者が意識すると否とにかかわらず、常に一つの社会的な現象であることでもあります。特に科学の進歩の著しい現代世界においては、学界及び一般社会から孤立した科学者は結局落伍の運命を免れないのみならず、二人以上の科学者が同じ問題を協力して研究することによって、より速くより大きな成果を挙げ得た実例が益々多くなりつつあるのであります。従つて研究の自由という原則も、学問の実状に即したより新しい、より広い見地からも考察されなければならないのであります。

更に又現在の緊迫した状態の中に置かれているわが国の科学者の多くは国民の一員として自己の天分と創意とを如何なる方面に発揮するのがわが国の再建に最も役立つかについて真面目に考慮しているに違いないのであります。それ等の人々の誠意と能力を十分に生かすような組織の急速な樹立が要望されるのであります。

第二は科学の諸部門が絶えず進歩しつつある事であります。その速度は一様ではなく部門によつて遅速はあるにしても、第一線に働く現役科学者の新陳代謝がどこでも行われているのであります。この事実が新しく樹立さるべき組織とその人的構造とに反映すべきは勿論であります。それと同時に長年に亘つて学問の進歩に貢献し後進にその道を譲つた功労者に対して国家は精神的物質的に充分報いる所がなければならないのであります。それと関連してわれわれは優秀なる研究者が一朝にして出来上がるものではないことをも忘れてはならないのであります。今日のわが国の現状においては何人にも生活の安定が容易に望まれ得ないのであります。特に専門教育を修了して日浅く自己を育成する途上にある人々は研究生活の継続に大なる困難を経験しつつあるのであります。如何にして多数の新しい研究者を養成するかが又学術体制の問題と密接な関係を有する重要問題の一つであります。

第三は学術の進歩に伴つてそれが益々多くの専門分科に分かれてゆく結果として、各研究者は多かれ少なかれ他と違つた自己の専門領域を持つてゐることでもあります。ある専門に深い知識と経験とを有する一人の学者の意見が、他の人々の意見と相反するにもかかわらず、前者の考えの正しいことが、事実或は論理によつて証明される場合さえあり得ることを認めなければならないのであります。この意見において研究者の「数」ばかりでなく、その「質」が極めて重要な意義を有することを無視出来ないのであります。学術体制の民

主化に際して、多数決の方式が原理的に尊重されるべきは勿論であります。しかし同時に少数専門家の意見が考慮される余地が残されていることが望ましいのであります。しかし学術の分科はその反面において各研究者の視野がややもすれば狭くなってゆく傾向を助長するものであります。われわれは知らず知らずの間に自己の専門分科を不当に重視し、他の分野を軽視する結果に陥っているのであります。基礎研究と応用研究、自然科学と人文科学の相対的な重要性に関する議論がしばしば繰返されるのも、それ等の間の本質的関連性が見通しがないことに原因する場合があります。人間の知識が如何に豊富になっても、それ等の各部分が相互に孤立し、且つ人間の社会生活との結びつきが無視されている限り、その真の価値は発現されないものであります。刷新委員会はこれを幾つかの多かれ少なかれ相互に矛盾する要求を出来得る限り満足せしめることによつて、理想的な体制を樹立することに努力しなければならないのであります。それはひとり日本国内における学術の振興に貢献するばかりでなく、講和会議が行われて後、日本が国際社会の一員として、学術研究に参加協力する日のための準備としても役立つ如きものであることが期待されるのであります。われわれは米国学術顧問団及び連合軍総司令部経済科学局の与えられた好意に衷心より感謝すると同時に今後ともこの委員会の仕事に鼓舞激励を与えられることを希望する次第であります。最後にこの学術体制の刷新の事業は単なる学者の利害のみに関するのではなく、国民生活の安定及び向上と最も深く結びついた国家的な重大問題であることを、国民一般特に政府関係者各位が充分理解され、全幅的な支援を与えられることを切望してやまないものであります。ここに刷新委員会の発足に当たつてわれわれ委員の決意を披露するとともに、関係各方面の援助を感謝する次第であります。

(昭和二年八月二五日、学術体制刷新委員会発会式、総理大臣官邸会議室)

(注) 『学術体制刷新委員会総会配付資料綴(第1回)』「6」。

## 二、学術体制刷新委員会に於ける片山内閣総理大臣挨拶

我が国がこの荒廃した国土の上に健全な文化国家として更正し得る為には、国民の携まざる勤労に加うるに科学の最も有効な活用が必要であります。而して科学がその充分な応用的効果を発揮する為には、常にその根底に豊饒な基礎的科学研究の活動が続けられていなければならないのであります。

近代に於ける科学の一つの特徴は、広く一般社会からの支持と協力に俟たねばその充分

な発達を期し得られないということでもあります。即ち社会が科学に依存する事愈々大であると同時に、科学も亦著しく総合化、社会化するに至ったのであります。従つて學術体制は単に科学者のみの間の問題に止まるのではなく、その関連する所は正に国民生活のあらゆる面に及ぶというも過言ではありません。また一面科学は國際的意義を持つものでありますが故に、一國の學術体制には当然國際的な意義と使命が伴つてくるのであります。而して學術体制の持つこれ等總ての意義と機能は時代と共に變遷することを看過してはならないのであります。即ち社会と科学とは共に一日として止まることのない歴史的な流れであるからであります。

我が國の科学は漸く百余年前に西欧から輸入せられました。それ以來極めて短日月の間に示された我が國科学の進歩には、部分的には世界を驚かすものがありました。然し遺憾乍らその急激な發達は國民から遊離して行われた觀があり、科学は國民生活に充分根を下ろすには至らず、國民も亦科学を充分消化するいとまが無かつたのであります。科学と國民との間のこの遊離が我が國の今日の不幸をもたらした一つの有力な原因であつたことを我々は銘記しなければならないのであります。

敗戦の結果我が國の在來の諸般の制度は根本的に再検討せられつつあり、學術体制に対する検討と反省が科学者自身の発意によつて始められた事は誠に當然であります。而してその第一歩として、新しい情勢に適應する理想的な學術体制の審議立案に當る委員が全國的に科学の全分野から民主的な方法によつて選出せられたのであります。この我が國科学界としては未曾有の大規模な選挙が自然科学、人文科学の全分野を挙げて行われた事は、我が國科学者が學術体制の刷新のために如何に真剣な抱負と熱意を持つてゐるかを示すものとして誠に心強い限りであります。斯くして選ばれた權威者により、今日茲に學術体制刷新委員會の成立を見るに至りました事は國民の一人として喜びに堪えない所であります。

選ばれたる委員各位はその使命の重大なるを充分自覺せられ、科学と社会に対する広き視野と深い洞察を以て新學術体制の立案に最善を尽くされんことを切望して止まないものであります。本委員會に於ける審議の経過は出来得る限り國民一般の前に公開されることのであります。これによつて國民一般の科学に対する関心と認識は少なからず向上するであります。各位の審議が進むにつれ、それによつて國民の世論が啓発されると共に、審議の結論が世論によつて強く支持せられるならば、我が國の學術新体制は既にその夙望以上を達成せられたものと云ふことが出来るのであります。

本委員會に於ける各位の成案に対しては、政府としても最善の敬意を払うこととお約束いたします。また本委員會の成案に対しては國民も誠意を持つて審議に当たることと思つ



のであります。各位の熱烈な科学的精神に立脚する真剣な御努力を願ってやまない次第であります。

最後に本位委員会の成立に多大の御援助を賜りました米国学術顧問団並びに総司令部経済科学部に對し深甚な謝意を表したいのであります。

この度権威ある米国学術顧問団が来朝せられ、最も暑苦しい季節にも拘らず我が国の科学者と会談せられ多くの精神的激励を与えられた事を深く感謝するものであります。顧問団の方々が各地の研究室を視察された時、多くの困難と障碍を克服して研究に従事している誠実な人々に会われた時我が国の科学者が如何に慰められ如何に勇気づけられたか察するに余りあるものがあるのであります。又た連合軍総司令部経済科学部に於かれては終始一貫同情と理解を以て我が国科学者による學術体制刷新の事業を指導援助せられ、今日刷新委員会の発足をみるに至つたのであります。この機会に國民を代表して心から御礼を申し上げる次第であります。

(昭和二年八月二五日、學術体制刷新委員会発会式、總理大臣官邸會議室)

(注) 『學術体制刷新委員会總會配付資料綴(第一回)』「7」。

### III' Address by Dr. Roger Adams For The Scientific Advisory Group

The Japanese people have renounced war and have declared their intention of overcoming their present adversities and of contributing to the peace of the world and welfare of mankind. In this endeavor, the scientists and technologists of Japan have a profound responsibility. The economic and cultural rehabilitation will depend in large measure on their efforts. The dearth of foodstuffs and raw materials make imperative the exportation of manufactured goods in order to permit imports of necessary commodities. By science and invention arising from the cooperation of the scientists with industry, much can be done toward a balanced economy.

Freedom of the individual is the spirit of democracy. Encouragement of the individual by offering equal opportunity to all will lead to the appearance of a new corps of scientists who will play an effective part in the future of Japan.

The schools and universities must instill into youth the desire to apply rational and scientific sense to all their activities. The students must be trained to think for themselves and to shoulder responsibility. With the individual unrestrained by narrow doctrines, unhampered by traditional

procedures and no longer blindly following a small group of leaders, a new national spirit will be created. When individual judgement and freedom in political and social activities prevail, a new Japan will arise. The cultivation of the arts and cultural science will follow from the freer atmosphere in the home and in society; an international interest will be awakened and Japan will take its place among the peace-loving nations of the world.

The Scientific Advisory Group has been favored with the opportunity of becoming acquainted with parts of Japan's cultural heritage and of viewing scenes whose beauty has made a permanent impression on all of us. We have observed one of Japan's most valuable assets, the industriousness of its citizens, and some of the achievements of which Japan may justly be proud. These are exemplified in the investigations and applications of intensive agriculture and sericulture, both unexcelled in any part of the world. The culturing of pearls is an accomplishment which arouses the admiration of any progressive nation. We have been deeply impressed with the art displayed in the decorated lacquer ware and handcarving.

The beauty of the homes, the flowers and flower arrangements, the hillsides, the mountains and the shores has been revealed to us and we shall always remember it.

In many parts of Japan we have conferred with Japanese scientists. They are eager to forge ahead. We feel we should emphasize the fact that on the whole, though not without exception, they are looking with confidence to the "Renewal Committee" to propose a democratic organization for scientists which will permit appropriate representation from all types of institutions, from all regions and from all disciplines of science. They ask merely for individual freedom and recognition for themselves and their organizations to the extent that it is deserved. A few individuals, fearful that the systems of the past may not be modified to make certain the appreciation of real ability, ask for radical changes which in themselves might be undemocratic. The leaders must take note of these various opinions and strive to give to Japan an organization which will lead to the cooperation of all scientists for the good of the community and the nation.

The contemplated organization, whatever it may be after careful thought by the "Renewal Committee", must accept its share of responsibilities in the New Japan. The application of natural science plays such an important part in daily life that it profoundly influences government policies.

National welfare demands that men in authority as well as the educated layman should have some understanding of natural science in order to plan balanced and reasonable programs devoted to the study of human problems and to the orderly development of a free society.

Natural science has done so much for mankind that it becomes commonplace to suppose it may be the answer to everything. Conquest over matter has sometimes been acclaimed as the only form of progress, but conquest over the attitudes of mankind would mean greater progress. Hope lies in man's control over himself and his relation to others.

The Scientific Advisory Group is deeply indebted to the "Reception Committee", members of which have helped to arranged to trips and have furnished us skilled interpreters. Only with their help could we have learned as much in so short a time. Everywhere in Japan, we have been overwhelmed with kindness and cordiality. Our discussions have been friendly and helpful. We are under great obligation to the many scientists, too numerous to mention, who have patiently assisted us. Our visits to the institutions, both government and private, and to the industrial laboratories and plants have left us with an understanding of their facilities and problems.

The scientists of the United States and the World have their eyes focussed on Japan. You can expect friendly sympathy and cooperation from the scientists of America who will be informed of the Japanese situation when we return. We are specifically charged to advise you of this. In no field of learning has cooperative internationalism been so genuine as in the field of the natural sciences. May we hope that this will extend to all other fields.

The Scientific Advisory Group will soon be leaving Japan. We depart with a deep feeling of friendship and gratitude to all whom we have met. We are certain that the "Renewal Committee" understands the import of its assignment. We carry with us the expectation that by the earnest efforts of the scientists cooperating with a free people, the adversities immediately ahead will be overcome.

(昭和二十二年八月二十五日、學術体制刷新委員會発会式、總理大臣官邸会議室)

(注) 『學術体制刷新委員會總會配付資料綴(第一回)』 「30」

#### 四、決議文

昭和二十二年九月二十日

學術体制刷新委員會 委員長 兼重寛九郎

連合軍總司令部經濟科学局 科学技術部次長 ケリ―博士 殿

拝啓 学術体制刷新委員会はその使命とする新学術体制立案に関する審議を開始するに  
当り、昭和二十二年、その第二回総会に於て別紙のような決議を行つてその重大な責任を  
果たそうとする決意を明かにしました。よつて特にこれを御報告致します。

#### 決 議

選出された百八名の委員で組織した学術体制刷新委員会は、わが国の平和的復興に貢  
献し、人類社会の福祉並びに世界学術の進歩に寄与し得る新学術体制を立案して、これが  
実現を計ることが内は日本国民に対し、外は世界人類に対する重大な義務であることを認  
識して、これに関する審議を開始するに当り、わが国科学者並びに連合軍総司令部の支持  
の下にその際最善と信ずる新学術体制案の完成を期しこゝにこれを決議する。

昭和二十二年九月十八日

(注) 『学術体制刷新委員会事務局綴 昭和22年』 「83」

#### 五、早稲田大学総長島田孝一から学術体制刷新委員会委員長兼重寛九郎宛意見書

昭和二十二年九月五日 早稲田大学総長 島田孝一

学術体制刷新委員会 委員長 兼重寛九郎殿

貴下がこの度学術体制刷新委員会委員長に御就任になりましたことは我が国学会のため誠  
に慶賀に存じます。

就いては本大学に於きましては学術研究体制の刷新に関し別紙の通りの意見を有して居り  
ますので、これを貴委員長宛に提出いたしますから将来の御施策に対し充分御考慮下さる  
よう御願ひいたします。

学術研究体制に関する意見書

早稲田大学

我国に於ける従来の学術研究体制の根本的欠陥は、一言にして掩へば、官学及び官立研究

所の偏重といふ点に在った。新学術研究体制は、この欠陥を徹底的に矯め、官、公、私の大学及び研究所の真に公平な取扱いの基礎の上に、自主独立の機関として構成され、且つ運営されて、学術研究の進歩に有効且つ適切に寄与し得るやう組織さるべきものと信ずる。

#### A 刷新委員会に関して

##### 一、刷新委員会に対する批判

- (イ) 世話人会の構成は官学偏重である。即ち四十四名の全世話人中、東京帝国大学二十名、東京商科大学一名、私立大学二名である。
- (ロ) 刷新委員選挙の方法は形式的機械的に民主主義的であるが、しかし実質的にはさうでなく、従つて結果から見ると、委員は一大学（東京帝国大学）のみに集まつてゐる。
- (ハ) 刷新委員会第一次選定人名簿の作成が杜撰である。即ち（一）関係部門の全く異なつた者を入れたり（二）一人で二重、三重乃至数重に諸部門の選定人となつてゐる。

##### 二、刷新委員会の構成についての対策

- (イ) 大学基準協会の会員たる関東地方に於ける大学の学部三十三より各一名宛及び有力な研究機関（但し大学の附属機関を除く）より一名宛を以て、世話人会を組織し、刷新委員の選出をやり直すこと。
- (ロ) 若し前項のことが不可能な場合には、私立大学及び民間研究機関より選出された約六十名の刷新委員を新たに増加すること。

##### 三、刷新委員会の運営について

- (イ) 地域別委員会をして刷新委員会の諮問機関としての機能を現実且つ有効に果たさしめるやう活用すること。
- (ロ) 刷新委員会は学術研究体制に関する原案を予め公表して一般をして十分批判する機会を与へしめること。

#### B 学術研究体制について

- 一、帝国学士院、学術研究会議及び学術振興会等を総て解消して、全国的規模に於て、官、公、私の大学及び研究所を網羅し、学術の全分野を包含する日本学術最高会議（仮称）を設ける。
- 二、日本学術最高会議は学術の振興、助成及び表彰、政府への権限並びに政府からの諮問に対する応答をなし併せて外国に対し日本の学術団体を代表するものとする。
- 三、日本学術最高会議の会員は大體四百名とし、中、二百名は所屬の研究機関から真に

公平且つ民主的に選出された代表者を以て当て、爾余の二百名は前記会員の推薦によるものとする。会員の任期は三年とする。

四、日本学術最高会議は總會、理事会及び部会を以て構成する。

五、日本学術最高会議は自主独立の機関として内閣に直結する。

六、日本学術最高会議は国庫より相当額の補助金を受け、これを所属機関若くは個人に分配する。

七、日本学術最高会議は官庁出版物、統計その他研究上の資材及び資料を分配する。

八、日本学術最高会議の役員を選出、補助金または研究資材、資料の分配等は真に公平且つ民主的方法により一部に偏することのないやうに運営さるべきこと。

(注) 『学術体制刷新委員会總會配付資料綴(第2回)』 「30」および「31」。

## 六、総司令部了解事項訳文

昭和二十三年三月二十二日

連合軍総司令部経済科学局科学技術課

次の原則に基く新学術体制の計画に対し、連合軍最高司令官に於ては異議なきものと思料せられる。

イ、日本学術会議が全国科学者を代表し、日本の科学及び技術を発達せしめ且活用する目的の為に存在する最高の地位にある団体として設立されること。

ロ、此の会議が、それ自身適当と見做した分野を代表し、総選挙によつて全国科学者を代表する適当数のメンバーから成立つこと。

これは、この了承事項によつて変更される可能性を除いてはすべて刷新委員会の提示する大体の線に沿つてなされるべきこと。

ハ、此の会議が、その運営費を国費に仰ぐこと。但しこれは憲法の限界内に於てなされねばならない。

ニ、此の会議が、政府の要請する事項につき政府に勧告と建議をなすこと。政府との正式の連繫は総理大臣を通じて持たれること。

ホ、学士院が学術会議によつて支援される名誉機関となること。学術研究会議の解消。日本学術振興会に対する政府の補助の終了すること。

- へ. それぞれの地域の科学者によって選出され、学術会議が全国に対して持つ責任と対応する地域的責任を有する自治的な地方審議会が設立されること。
- ト. 政府部内に、各省及び適当なる外部団体の科学活動を調整する目的を以て、科学技術協議会を設立すること。此の協議会は各省代表及び学術会議の推薦に充分の考慮を拂いつゝ総理大臣の提示の下に任名<sup>マ</sup>された人々から成立つこと。

(注) 『学術体制刷新委員会総会配付資料綴 (最終回)』 (リールNo. 9) 「17」

七. Draft Only-----Subject to Confirmation

The interested sections of GHQ agree that there is no objection:

A. To the establishment of a Science Council of Japan as a body of the highest status, representative of all the scientists for the purpose of the advancement and use of science and technology in Japan.

B. To this Council consisting of 210 members, representing such fields as the Council itself may consider appropriate and representative of all scientists on Japan by general selection, all in accordance with the general outline proposed by the Renewal Committee except as may be modified herewith.

C. To this Council obtaining government funds for its operations provided such funds are available within the limits of the constitution.

D. To this Council presenting the government with advice and recommendation on such matters as the government may request and with the formal channel of communication to the government being through the Prime Minister.

E. To the National Academy becoming an honorary organization, generally sponsored by the Science Council; to the termination of the National Research Council and to the cessation of government aid to the Japanese Society for the Promotion of Science.

F. To the establishment of self-autonomous regional assemblies elected by the scientists in three regions and with local responsibilities that generally corresponds to the responsibilities of the National Science Council to the whole country.

G. To the establishment of a Science Technical Committee within the national government

frame-work for the purpose of coordinating science activities of the ministries and also outside organizations where appropriate, this committee being composed of ministerial representatives and such other persons as may be appointed under direction of the Prime Minister, paying due regard to the recommendations of the Science Council.

(注) 内容から見て総司令部了解事項訳文の原文と思われるので採録した(『学術体制刷新委員会事務局綴 昭和22年』「275」)。

## 八、声明書

荒廃した国土の上に平和な文化日本を建設するためには、何にもまして科学の力の最高度の活用を必要とする。しかるに、これまでのわが国には、科学の研究それ自体に総合性が欠けていたばかりでなく研究の成果が政治、産業および国民生活から遊離しているという重大な欠陥があった。学術体制刷新委員会は、これを根本から是正するために、八ヶ月間の論議検討を重ね、全国全分野の科学者によって民主的に選挙された日本学術会議を創立すると同時に、科学技術行政協議会を設けて、科学を行政の上に有効に反映せしむべきであるという結論に到達した。科学立国の方途ここに成る。われらは、第一に、全国の科学者が学術会議の使命達成に渾身の協力を寄せられることを、第二に、政府および国会がこの構想の実現に努力せられることを、第三に国民各位がこの大事業に強い支援を与えられることを要望する。今後はこの刷新案を具体化するため実行あるのみである。

昭和二十三年三月二十七日 学術体制刷新委員会

(注) 『学術体制刷新委員会総会配付資料綴 (第8回)』「35」

## 九、総理大臣への報告文

昭和二十三年四月八日

学術体制刷新委員会委員長 兼重寛九郎

内閣総理大臣 芦田 均 殿



## 新学術体制の立案について

去る一月二十九日付総審第九号をもって、調査研究を委託されたわが国における新学術体制の立案に関し本委員会の得た成案をここに報告する。

そもそも、本委員会は、全国科学者の民主的選挙によつて選出された委員百八人をもつて組織し、わが国の平和的復興、人類社会の福祉並びに世界学術の進歩に寄与し得る新学術体制の立案、企画を目的として、昨年八月発足したものであるが、今日に至るまで總會を開くこと八回、運営委員会、特別委員会を開くこと七十数回に及び、鋭意審議に當つた。この間全国七地区に地方連絡委員会を設けて、普く全国科学者の総意を反映するに努めたほか、本委員会に対して広く各方面から寄せられた意見、提案、並びに報道機関を通じての世論を参考とし、また公聴会を開催する等の方策を講じて、慎重に審議を重ねた。

なお、昨年夏の米国学術顧問団の来朝等に示された連合軍總司令部当局の本問題に対する深甚な関心に鑑み、連合軍總司令部との連絡については特に綿密な注意を払つた。今回の成案は別紙寫の示す如く予め連合軍總司令部当局の諒解を得たものである。

以上の経緯に鑑み、左記概述する学術体制の実現については、政府におかれても最善の努力を傾注せられ一日も速かに新たな体制を確立されるよう、全国科学者を代表して衷心より要望せざるを得ない。

なお、右調査研究費の収支計算書は証憑書類を添えて別途報告する。

### 記

#### 一

わが国を荒廃より救い、健全な文化国家として更生させるためには科学の力を最も有効に活用しなくてはならない。そのためには、従来の学術体制を再検討し、新たな構想の下に全国科学者の緊密な連絡協力によつて、研究水準の劃期的高揚に努め、併せて行政、産業及び国民生活に科学を反映滲透させる新組織を確立することが必須の條件である。

このような新組織は「日本学術會議」の名の下に次のような構想をもつべきものとする。

- 一、日本学術會議は、わが国科学者の内外に対する代表機関として、新たに法律によつて設立し、その所管は内閣總理大臣、その経費は國庫の負担とすること。
- 二、日本学術會議は、独立して職務を行い、科学に関する重要事項を審議してその実現に努力し、併せて研究の連絡、促進を図り、その能率を向上、発展させることを任務と

すること。

- 三、 政府は、科学に関する重要施策に関して、日本学術会議に必ず諮問するの慣行をつくり、日本学術会議は、これについて政府に勧告するの権限を有すること。
- 四、 日本学術会議会員は、二百十人とし、一定の資格を有する全国科学者の選挙によって選出されるものとする。なお、日本学術会議の重要な使命に鑑み、会員の選挙に要する経費は国庫の負担とすること。
- 五、 学術研究会議は、その機能が日本学術会議に吸収されるをもって、これを廃止し、日本学士院は、碩学優遇の榮譽機関としての性格を明かにして、これを日本学術会議に含ませること。
- 六、 日本学術会議に事務局を置き、これに政府職員を配し、十分その機能を発揮し得るよう有能な官吏を充てること。

以上が本委員会の議決した新組織である日本学術会議に関する報告であるが、これに基づいて、本委員会は左のことを政府に対して要望する。

- 一、 政府は、本委員会の審議の成果たる「日本学術会議法要綱」を速やかに法制化するよう取計らわれない。

よつてここに「日本学術会議法要綱」を提出し、参考資料として「日本学術会議会則(案)」「日本学術会議会員選挙規則(案)」及び第一回日本学術会議会員選挙のために、本委員会において議決した「第一回日本学術会議会員選挙管理委員会規則」を添付する。

- 二、 政府は、地方分権尊重の精神に鑑み、各地方公共団体に対して、その地域の科学者によって選出され、本会議が全国に対して有つ責任と対応する地域的責任を有する自治的な地方審議会の設立並びにこれが経費の負担に関し懇懇斡旋すること。

なお、このことについては、本委員会より各地方長官並びに本委員会各地方連絡委員会に対して、この旨要望した。

- 三、 日本学術会議の所管については、わが国における行政機構の現情に応じて、これを内閣総理大臣と定めたが、現に行われようとしている行政官庁の改組に睨み合せ、本会議の任務を遂行するに、より適当な官庁が実現する暁においては、これに移管するも妨げない。

二

次に従来わが国においては、科学研究の成果を、迅速かつ総合的に行政諸施策に活用せ

ず、加うるに各省科学技術行政の連絡調整十分ならず、科学と国策とは相遊離し、行政全般に科学性を欠く恨みがあつた。他方、基本的諸科学の振興についても、政府は、充分の熱意と理解を有せず、貧弱な施設と零細な資金、資材のもとに、有能な研究者をして十分その驥足を伸すことを不可能ならしめた。

以上の弊を是正するため、政府においては、次の如き措置を速かに講せられるよう要望する。

- 一、内閣に新たに科学技術行政協議会を設け、日本学術会議の代表者、民間産業界の有識者及び各省関係者をもつてこれを組織し、日本学術会議の意志を政府に連絡反映させ、各省間の科学技術行政の連絡調整を図る機関とすること。なお、この協議会に事務局を置き、その活動を遺憾なきようにすること。
- 二、わが国における基本的諸科学の振興に対し責任を負うべき行政機構を整備強化すること。

このことについては、本委員会において議決した別添「科学技術行政に関する件」を参照されたい。

以上

(注) 『学術体制刷新委員会総会配付資料綴(最終回)』 「15」

## 4 学術体制刷新委員会関連日程

- \* 「学術研究体制世話人会経過報告書」，「学術体制刷新委員会総会記録（概要）」（第1回～第8回），広重徹『科学の社会史』（1973年）に基づいて作成した。

### 昭和21年

- 2月26日 帝国学士院，学士院の改造案を文部省宛提出
- 3月 学術研究会議，改革案を文部大臣ほかに建議
- 5月17日 文部省の斡旋で，学士院，学術研究会議，日本学術振興会の代表者からなる改組準備委員会結成
- 6月 GHQ科学技術課ケリーの指導により，田宮博，茅誠司，嵯峨根遼吉らにより科学渉外連絡会（Japanese Association for Scientific Liaison, SL）結成
- 7月9日 SL第1回総会
- 9月28日 GHQ科学技術課ケリー，帝国学士院，学術研究会議，日本学術振興会，文部省科学教育局，科学渉外連絡会関係者を招致して改組案の提出を命じる
- 11月21日 SL，「科学技術新体制案」公表
- 11月27日 GHQ科学技術課ケリー，帝国学士院，学術研究会議，日本学術振興会，文部省科学教育局，科学渉外連絡会関係者を招致して改組案を披露させ，科学渉外連絡会に以後の進行を委託
- 科学渉外連絡会の召集で，帝国学士院，学術研究会議，日本学術振興会，文部省科学教育局関係者参集し，改組準備委員会の意向を問う
- 12月13日 改組準備委員会開会されるが解散
- 文部省科学教育局，法学，経済学，理学，工学，農学，医学の各専門分野から東京在住の数名の世話人を推挙して学士院，学術研究会議，日本学術振興会の承諾を得る
- 世話人会，官庁，民間の代表を加えて世話人会を組織

### 昭和22年

- 1月17日 学術研究体制世話人会第1回会合
- 4月2日 世話人会学術体制刷新委員会委員選出方法決定

- 4月上旬 刷新委員会委員選挙開始
- 5月10日 文部省，各大学総長・学長，高等・専門学校長（協会・学会・研究所長）宛に  
学術体制刷新委員会委員選出の依頼
- 8月10日 刷新委員選挙完了
- 8月18日 学術体制刷新委員会在京委員による総会のための協議
- 8月25日 学術体制刷新委員会第1回総会（総理大臣官邸会議室） 午前10時10分 開会
1. 学術研究体制世話人会より引継の会
    - (1) 経過報告（世話人代表尾高朝雄）
    - (2) 在京委員協議結果報告（兼重寛九郎）
  2. 学術体制刷新委員会発会式
    - (1) 刷新委員代表湯川秀樹挨拶
    - (2) 片山内閣総理大臣挨拶
    - (3) 米国学術顧問团团長アダムス博士挨拶
    - (4) 総司令部経済科学局科学技術部次長ケリー博士挨拶
    - (5) 同部長オプライエン代将挨拶
- 午後1時 協議
- (1) 世話人会経過報告に対する質疑
  - (2) 同引き継ぎ事項の処理（当選者田辺元，南原繁，安倍能成辞任申し  
出承認，小池隆一，石原恵忍，赤松保羅繰り上げ当選）
- 午後3時30分 散会
- 8月26日 同 総会（東大附属図書館）
- 午前9時 懇談 米国学術顧問団
1. 学術顧問团团長アダムス博士演説
  2. 亀山日本側委員会委員謝辞
- 午前10時30分 散会 午後1時 総会協議
1. 刷新委員会委員長の選定について（兼重寛九郎選出，次点我妻栄）
  2. 刷新委員会の運営方法について（運営委員会で協議，委員15名）選出
  3. その他（次回総会日程）
- 8月28日 運営委員会
- 9月9日 運営委員会
- 9月17日 学術体制刷新委員会第2回総会第1日（帝国学士院講堂）午前9時40分 開会
1. 兼重寛九郎委員長挨拶
  2. 委員長報告

- (1) 運営委員会開催状況（「仮称」をのぞき正式名称を「学術体制刷新委員会」）
- (2) 事務局について（学研事務局に設置し，事務局員に兼務）
- (3) 速記録並びに議事記録について
- (4) 新聞記事について
- (5) GHQとの連絡について（出席を例とせず，懇談会もおかないが連絡委員をおいて緊密な連絡，嵯峨根委員と人文関係委員1名）

### 3. ケリー博士挨拶

### 4. 学術体制刷新に関する具体案の例示

- (1) 委員長説明
- (2) 科学渉外連絡会有志の学術体制案について（茅委員）
- (3) 人文科学関係の有志による新学術研究体制案について（尾高委員）
- (4) 農業科学技術に関する調査，研究並びに普及体制改善案（農業渉外連絡会について，住木委員）

正午 休憩      午後1時5分 再開

- (5) 学術研究体制についての諸意見（京都大学）について（湯川委員）
- (6) 日本学術研究体制刷新の要綱（慶應義塾案）について（小池委員）

### 5. 協議

- (1) ケリー博士の演説について
- (2) 学士院，学研，学振，関係官庁及び国会の代表者を委員に加えることの可否について
- (3) 地方委員会について
- (4) 地方委員会との連絡について
- (5) 提案処理小委員会について
- (6) 会則及び議事規則等について
- (7) 小委員会の設置について（地方委員会準備小委員会委員に菊池外15名，提案処理小委員会に小池外15名，会則，議事規則小委員会に尾高外15名選出と第1会小委員会日程決定）

### 6. その他（事務局を学研内に設けた理由の質議）

午後4時 散会

9月18日 学術体制刷新委員会第2回総会第2日（帝国学士院講堂）

午前9時30分 各小委員会開催（地方委員会準備小委員会・学士院応接室，提案処理小委員会・学士院第一部会室，会則議事規則小委員会・

博物館別館)

午後1時30分 開会

1. 地方委員会準備小委員会について
  - (1) 瀬藤小委員長経過報告
  - (2) 審議 (地方委員会規則, 地方連絡委員会規則可決)
2. 提案処理小委員会について
  - (1) 上野小委員長経過報告
  - (2) 尾高委員報告
  - (3) 早大提案についての討議
3. 会則, 議事規則小委員会について
  - (1) 山田小委員長経過報告
  - (2) 会則についての審議 (草案及び会則可決)
  - (3) 議事規則審議 (議事規則可決)
4. ケリー博士の演説に対するフォーマル・ノートについて
  - (1) 嵯峨根委員原案説明
  - (2) 討議 (ケリー博士演説に対し, 決議を送付すること)
5. その他
  - (1) 提案処理特別委員会の常置 (2) 副委員長の選挙は次回総会まで延期 (3) 学術新体制案を10月15日までに提案するよう関係方面に依頼状 (4) 次回総会は10月24, 25日に開催 (5) 大河内一男委員の辞任を承認し舞出長五郎を繰り上げ当選 (6) 運営委員宮沢俊義と久保正幡と交代承認 (7) 緊急処理事項は運営員会に諮り準備委員会を設けて処理

午後6時50分 散会

- 9月19日 地方在住委員と協議し, 地方連絡委員会の設立について協議
- 9月20日 学術体制刷新委員会委員長より経済科学局ケリー宛に決議報告
- 10月10日 早大総長からの意見書に関し, 兼重寛九郎委員長と早大総長が会談.
- 10月24日 学術体制刷新委員会第3回総会 (帝国学士院講堂) 第1日 午前9時40分 開会
1. 第2回総会以降の経過報告 (兼重委員長; 第2回総会以後, 運営委員会毎週開催 (4回), 運営委員会と提案処理特別委員会との協議会1回開催し, 総会の準備, 提案処理特別委員会は, 2回開催)
  2. 副委員長の選挙 (尾高朝雄, 茅誠司選出)
  3. 提案処理特別委員会報告 (上野特別委員長説明)
  4. 新学術体制に対する提案の説明並びにこれに対する質疑応答

- (1) 百瀬好若案 (提案第1号)
- (2) 民主主義科学者協会案 (提案第4号)
- (3) 歴史学研究会案 (提案第2号)

午後0時5分 休憩 午後1時5分 再開

- (4) 人文科学関係有志案 (前回配布)
- (5) 慶應義塾大学案 (提案第3号)
- (6) 小倉金之助外4名提案 (提案第10号)
- (7) 工業技術渉外連絡会案 (提案第5号)
- (8) 科学渉外連絡会有志案 (提案第7号)
- (9) 早稲田大学案 (提案第8号, 意見書及び提案)
- (10) 医学渉外連絡会有志案 (提案第6号)

5. 提案の処理についての討議
6. 地方連絡委員会についての報告
7. 学術体制刷新委員会に提出せられた意見書の分類について

午後3時50分 閉会

10月25日 学術体制刷新委員会第3回総会 (帝国学士院講堂) 第2日午前9時50分 開会

1. 本委員会の使命に関する自由討議
  - (1) 趣旨説明 (兼重委員長)
  - (2) 3学術団体について
  - (3) 審議機関について

正午 休憩 午後1時10分 再開

2. 特別委員会設置の件
  - (1) 趣旨説明 (兼重委員長)
  - (2) 討議, 質疑応答
  - (3) 特別委員会として, 1) 審議機関 (最高科学者会議) に関するもの, 2) 科学行政機構に関するもの, 3) 選挙 (母体方法) に関するもの, 4) 渉外連絡に関するもの, 5) 提案処理に関するもの, の設置を決定
3. 特別委員会委員選定の件 (審議機関, 科学行政機構, 提案処理に関するものは各部門から2名ずつ, 総合部門から1名, 選挙に関するものは各部門から3名ずつ, 総合部門から1名を選出すること, 運営委員は前の3者に2名ずつ, 選挙に関するものには3名加わることに決定し, 特別委員を選定)
4. その他



- (1) 地方連絡委員が住所変更した場合は新住所で協力のこと承認
- (2) 資料は地方連絡委員の正副委員長，幹事まで配布，最後案は全部に配布努力
- (3) 特別委員会は立案を任せられたものでなく，委員全体から具体的意見を出すこと了承

午後4時50分 閉会

10月31日 兼重委員長，ケリーへ報告

11月8日 提案処理特別委員会 坪井忠委員長代理に選出，  
行政機構特別委員会 平野委員長選出

11月14日 審議機関特別委員会 我妻栄委員長，兼重委員長，ケリーへ報告

11月20日 行政機構に関する特別委員会，選挙特別委員会

11月21日 学術体制刷新委員会第4回総会（日本学士院講堂）第1日 午前10時 開会

1. 一般的報告（兼重委員長）

- (1) 特別委員会について
- (2) 決議文の処理について
- (3) ケリー博士への報告について

2. 特別委員会経過報告並びにこれに関する討議

- (1) 提案処理特別委員会報告（坪井忠特別委員長代理）
- (2) 審議機関特別委員会報告（我妻特別委員長）・討議

午後0時5分 休憩 1時20分 再開

討議継続

- (3) 選挙に関する特別委員会報告（矢内原特別委員長）・討議
- (4) 行政機構に関する特別委員会報告（平野特別委員長報告）・討議

午後4時10分 閉会

11月22日 学術体制刷新委員会第4回総会（日本学士院講堂）第2日 午前10時10分 開会

1. 行政機構に関する討議継続

午後0時15分 休憩 1時10分 再開

2. 本委員会の目的達成に対する一般的討議

- (1) 審議完了時期に関する見透しについて
- (2) 体制案の実現対策について
- (3) 地方連絡委員会，国会，官庁方面との連絡及び公聴会について
- (4) 研究者の育成について
- (5) 全特別委員会に共通した問題について

### 3. その他

#### (1) 浦本委員の公職追放により辞任の承認

午後4時20分 閉会

- 11月22日 選挙に関する特別委員会  
11月28日 審議機関に関する特別委員会  
12月4日 審議機関に関する特別委員会・行政機関に関する特別委員会協議会  
12月12日 選挙に関する特別委員会  
12月18日 審議機関に関する特別委員会・行政機関に関する特別委員会協議会  
12月19日 審議機関に関する特別委員会・行政機関に関する特別委員会協議会  
12月20日 選挙に関する特別委員会  
12月22日 学術体制刷新委員会第5回総会第1日（日本学士院講堂）午前10時20分 開会

#### 1. 委員長一般報告（兼重寛九郎）

- (1) 特別委員会について（提案処理を除く委員会は毎週会議）
- (2) 本委員会の経費について
- (3) GHQとの連絡について（2回ケリー博士に報告）
- (4) 官庁方面との連絡について（文部次官・関係局長との懇話会開催）

#### 2. 提案処理特別委員会報告（坪井忠特別委員長）

#### 3. 審議機関特別委員会報告（我妻特別委員長）

#### 4. 行政機関に関する特別委員会（平野特別委員長）

#### 5. 審議機関に関する主要問題についての説明（我妻特別委員長）

- (1) 審議機関の性格（立案の上，次回意見聴取）
- (2) 審議機関の設置，維持等（意見なく賛成多数で原案通り可決）
- (3) 会員数（原案通り可決）
- (4) 政府に対する地位（修正案を可決）
- (5) 任務（原案通り可決）
- (6) 行政に対して持つべき権限の程度

#### 6. 審議機関に関する主要問題についての討論，議決

午後4時 閉会

- 12月22日 学術体制刷新委員会第5回総会第2日（日本学士院講堂）午前10時30分 開会

#### 1. 審議機関に関する主要問題についての討論，議決の続き

- (1) 任務の続き（原案通り可決）
- (2) 行政に関して持つべき権限の程度（我妻委員長からの修正案により可決）

2. 行政機構に関する主要問題についての討論
3. 選挙に関する特別委員会の経過報告（矢内原特別委員長）
4. その他（浦本委員の後任に木下良順阪大教授を繰り上げ当選）

午後4時 閉会

昭和23年

- 1月7日 学術体制刷新委員会関西第二地方連絡委員会第8回総会（大阪大学理学部）
- 1月10日 行政機構に関する特別委員会
- 1月16日 審議機関に関する特別委員会
- 1月18日 審議機関に関する特別委員会
- 1月21日 経済安定本部和田長官等との懇談会，行政機構に関する特別委員会
- 1月23日 審議機関に関する特別委員会・選挙に関する特別委員会協議会
- 1月26日 行政機構に関する特別委員会
- 1月30日 学術体制刷新委員会第6回総会第1日（日本学士院講堂）午前10時40分開会

1. 委員長一般的報告（兼重寛九郎）

- (1) GHQへの報告（前回総会の議決事項と今回総会の審議予定を中心に各1回）

- (2) 研究者育成に関する件について教育刷新委員会南原委員長と会談

2. 各地方連絡委員会委員長報告

- (1) 九州地方・渡辺地方連絡委員長

- (2) 関西第二地方・熊谷地方連絡委員長

- (3) 関西第一地方・西村（代理）地方連絡委員長

- (4) 東海地方・戸沢地方連絡委員長

- (5) 東北地方・木村地方連絡委員長

- (6) 北海道地方・鈴木連絡委員長

3. 提案処理特別委員会経過報告（坪井特別委員長）

4. 審議機関に関する特別委員会経過報告（我妻特別委員長）

5. 審議機関に関する主要問題についての討論，議決

- (1) 審議機関が行政に対して持つべき権限の程度（我妻により説明，審議・原案可決）

- (2) 審議機関の構成の大綱（我妻・矢内原により説明，審議の結果原案可決）

- (3) 既存学術団体の処置（我妻より説明，学士院は榮譽機関とすることなど修正案可決，人文科学委員会・科学試験研究協議会については委員会でさらに検討）

午後5時40分 散会

1月31日 学術体制刷新委員会第6回総会第2日（日本学士院講堂）午前10時30分 開会

1. 行政機構に関する特別委員会経過報告（平野特別委員長）
  - (1) 行政機構について（3案報告）
2. 行政機構に関する主要問題についての討論，議決
  - (1) 科学技術行政機構に関する議案説明
  - (2) 審議・採決（連絡調整を協議会形式で行う案が賛成多数で可決）
3. 選挙に関する特別委員会の経過報告（矢内原特別委員長）
  - (1) 有権者の範囲
  - (2) 部門別
  - (3) 地域の分け方
  - (4) 選挙法
  - (5) 定員及其その割り当て
4. 選挙に関する主要問題についての討論，議決
  - (1) 矢内原特別委員長から提議
  - (2) 有権者の範囲
  - (3) 地域の分け方
  - (4) 部門の分け方
  - (5) 地域に割り当てる定員
  - (6) 部門別の定員
5. その他
  - (1) 日本学術振興会に関する問題を審議するための審議機関に関する特別委員の追加
  - (2) 政府との交渉のために渉外連絡特別委員会に任務追加，このために，審議機関，行政機構，選挙に関する3特別委員会委員長を特別委員として追加

午後5時20分 閉会

2月20日 学術体制刷新委員会と総司令部との連絡会議（第4回）

\*第6回総会からこの日まで合計4回，総司令部と連絡

2月23日 学術体制刷新委員会第7回総会第1日（日本学士院講堂）午前10時30分 開会

1. 委員長一般的報告（兼重寛九郎）
2. 各地方連絡委員会委員長報告
  - （1）北海道地方・鈴木連絡委員長
  - （2）東北地方・木村地方連絡委員長
  - （3）関東地方・小野地方連絡委員長代理
  - （4）東海地方・戸沢地方連絡委員長
  - （5）関西第一地方・西村地方連絡委員長
  - （6）関西第二地方・熊谷地方連絡委員長
  - （7）九州地方・渡辺地方連絡委員長
3. 提案処理特別委員会経過報告（坪井特別委員長）
4. 選挙に関する特別委員会の経過報告（矢内原特別委員長）
5. 選挙に関する諸問題についての討論
6. 行政機構に関する特別委員会経過報告（平野特別委員長）
7. 行政機構に関する諸問題についての討論，質疑応答

午後 5 時 閉会

2月24日 学術体制刷新委員会第7回総会第2日（日本学士院講堂）午前10時55分 開会

1. 審議機関に関する特別委員会経過報告（我妻特別委員長）
2. 審議機関に関する諸問題についての討論
  - （1）学術研究会議について
  - （2）学士院について
  - （3）学術会議の構成員を会員とするか委員とするか，その他
  - （4）学術会議の性格について
  - （5）地方支部について

午後 0 時20分 閉会

午後 部会，特別委員会

2月25日 学術体制刷新委員会第7回総会第3日（日本学士院講堂）午前10時30分 開会

1. 選挙に関する諸問題についての討論・議決
  - （1）矢内原特別委員長の報告・説明
  - （2）討論・議決
2. 行政機構に関する主要問題についての討論，議決
  - （1）平野特別委員長から説明
  - （2）審議・採決
3. 審議機関に関する諸問題についての討論，議決

#### 4. その他

午後6時40分 閉会

- 2月25日 選挙に関する特別委員会
- 3月3日 午前9時半 学術体制刷新委員会委員長，渉外連絡特別委員会委員と経済科学局との会見，午後2－4時半 刷新委員と学士院関係者との懇談会
- 3月5日 関西第一地方連絡委員会幹事会，審議機関に関する特別委員会
- 3月6日 関西第二地方連絡委員会幹事会
- 3月9日 九州地方連絡委員会運営委員会
- 3月10日 東北地方連絡委員会幹事会
- 3月11日 審議機関に関する特別委員会
- 3月13日 関西第二地方連絡委員会第8回総会（大阪大学理学部）
- 3月15日 公聴会（日本医師会館）
- 3月16日 GHQ民政局ポーター仙台訪問，東北地方成瀬委員と懇談（17, 19日）
- 3月17日 九州地方連絡委員会総会，審議機関に関する特別委員会
- 3月19日 午後2－4時 各地方連絡委員長会議（日本学士院会員控室）
- 3月19日 関西第二地方連絡委員会総会，関東地方連絡委員会総会
- 3月22日 東北地方連絡委員会総会，審議機関に関する特別委員会
- 3月23日 GHQ経済科学局科学技術課より了解事項，選挙に関する特別委員会
- 3月24日 午後3時 報道関係者との懇談会（日本学士院会員控室）
- 3月25日 学術体制刷新委員会第8回総会第1日（日本学士院講堂）午前10時20分 開会

##### 1. 委員長一般的報告（兼重寛九郎）

- (1) GHQとの連絡について（第7回総会以後，第8回総会までに6回GHQと連絡）
- (2) 関係官庁及び学術団体との連絡について（逓信省，文部省，経済安定本部，学士院，学術振興会との懇談）
- (3) 公聴会，報道関係者との懇談

##### 2. 各地方連絡委員会委員長報告

- (1) 九州地方・渡辺地方連絡委員長
- (2) 関西第二地方・熊谷地方連絡委員長
- (3) 関西第一地方・西村地方連絡委員長
- (4) 東海地方・戸沢地方連絡委員長
- (5) 関東地方・小野地方連絡委員長代理
- (6) 東北地方・木村地方連絡委員長

(7) 北海道地方・柳委員長代理

3. 提案処理特別委員会経過報告（坪井特別委員長）
4. 審議機関に関する特別委員会経過報告（我妻特別委員長）
5. 審議機関に関する諸問題についての討論・議決

午後4時45分 閉会

3月26日 学術体制刷新委員会第8回総会第2日（日本学士院講堂）午前10時20分 開会

1. 選挙に関する特別委員会経過報告（矢内原特別委員長）
2. 選挙に関する諸問題についての討論・議決
3. 行政機構に関する特別委員会経過報告（平野特別委員長）
4. 行政機構に関する諸問題についての討論

午後5時20分 閉会

3月27日 学術体制刷新委員会第8回総会第3日（日本学士院講堂）午前10時20分 開会

1. 行政機構に関する諸問題についての討論，議決
  - (1) 科学技術行政協議会について
  - (2) 科学技術局，科学技術委員会について
  - (3) 科学の振興を担当する行政機関について
  - (4) 議決
2. 選挙に関する諸問題についての議決
3. 儀礼的行事
  - (1) 兼重寛九郎委員長挨拶
  - (2) ケリー博士挨拶
4. 声明書について
5. 中央選挙管理委員会について
6. 報告文議決
7. 日本学術会議設立準備の件
8. その他
  - (1) 地方連絡委員について
  - (2) 特別委員会について
  - (3) 本委員会の今後の活動について

午後1時45分 散会

## 編者紹介

羽田 貴史 広島大学大学教育研究センター助教授



## 学術体制刷新委員会関係資料目録

(高等教育研究叢書49)

1998年（平成10）年3月31日 発行

---

編者	羽田 貴史
発行所	広島大学大学教育研究センター 〒739-8512 東広島市鏡山1-2-2 電話 (0824)24-6240
印刷所	株式会社 タカトープリントメディア 〒730-0052 広島市中区千田町3丁目2-30 電話 (082)244-1110

---

ISBN 4-938664-49-6





**REVIEWS IN HIGHER EDUCATION**

No.49 (March 1998)

---

**Catalogue of Materials of  
" the Renewal Committee for Scientific Organization "**

---

**RESEARCH INSTITUTE FOR  
HIGHER EDUCATION  
HIROSHIMA UNIVERSITY**

ISBN4-938664-49-6